

平成 31（2019）年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書

2020年3月

環境省 中部地方環境事務所
中部環境パートナーシップオフィス
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

目 次

業務概要	1
1 業務実施計画の作成及び公表	7
(1) 2019 年度の業務実施計画の作成	7
(2) 運営会議での協議	17
(3) ホームページへの掲載	17
2 運営会議の設置・開催	19
(1) EPO 中部運営会議	19
(2) 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議	21
3 基本業務	25
(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務	25
(2) 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務	32
(3) 施設の維持・管理	43
4 協働取組の促進のための業務	51
(1) 協働コーディネーター育成事業の発展的展開	51
(2) 地域における持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化	69
5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務	77
(1) ESD 活動を支援するための情報共有等	77
(2) ESD 活動の支援等	95
(3) ESD 活動のネットワーク形成に係る業務	95
(4) 全国 ESD センター等との連携、地域 ESD 拠点登録支援等	103
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	109
(1) 採択団体及び中部地方環境事務所との連携	109
(2) 採択団体の伴走支援	110
(3) 環境省及び全国支援事務局との連携	112
(4) 加速化事業採択案件に対する照会等対応	117
7 EPO 中部のこれまで集積したネットワーク及びノウハウの整理	119
(1) EPO 中部関連の過去報告書の整理	119
(2) アーカイブとしての活用・公開に向けて	120
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	121
(1) 実施概要	121
(2) 多様な主体との連携 / ワークショップの実施	122
(3) 事後の変化	150
(4) EPO 中部事業「活動見える化プログラム」による分析	154
(5) 参考資料	161
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	163
(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換	163
(2) 全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化	172
10 外部資金を活用した事業	175
(1) グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト	175
(2) 地球環境基金	184
(3) 愛知県コーディネート業務	185
11 今後に向けて	187
(1) 課題の整理	187
(2) 今後の展開	188

業務概要

(ア) 業務の目的

持続可能な社会を構築するためには、国民、民間団体等が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全の意欲の増進及び環境教育が重要であり、これらの取組を効果的に進める上で協働取組が重要である。「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（以下「環境教育等促進法」という。）」第19条において、「国は、国民、民間団体等が行う環境保全等を効果的に推進するため、情報提供や助言、交流機会の提供等を行う拠点としての機能を担う体制の整備に努めること」とされており、同法第7条で定める国の方針により、環境省では、協働取組を構築・促進するための中核的な担い手として「環境パートナーシップオフィス（以下「EPO」という。）」を全国に設置し、事業を実施しているところである。

また、「我が国における持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム実施計画（以下「ESD国内実施計画」という。）」では、ESD活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、地域ESD活動推進拠点（以下「地域ESD拠点」という。）の形成並びに地域が必要とする取組支援及び情報・経験の共有を可能とするネットワーク機能の体制としてESD活動支援センター（全国・地方）を整備することとされており、「ESD推進ネットワークの構築に向けて」（平成28年3月ESD活動支援企画運営準備委員会 文部科学省 環境省）において、地方ESD活動支援センターの運営には、EPOを活用することとされている。

本業務は、環境教育等促進法の規定する国の役割及びESD国内実施計画の規定するESD推進ネットワーク構築の役割を果たすため、全国のEPO・地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEOC」という。）及びESD活動支援センター（全国・地方）のネットワークを活用しつつ、中部地域の特性・事情を踏まえて各種事業を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動等を活性化させること、及びESDを一層推進させることを目的に実施した。

併せて、環境教育等促進法に定義する協働取組として本業務を実施することにより、協働取組のあり方を示すことを副次的な目的として実施した。

(イ) 業務の内容

中部環境パートナーシップオフィス（以下「EPO中部」という。）には、主に①持続可能な社会の実現に向けた地域の協働取組モデルの創出・支援、②持続可能な社会の構築に向けたESD・SDGsの推進、③地域における中間支援機能の強化、④環境教育等促進法の普及・促進、⑤情報の提供・相談対応等、の5つの役割が地域において期待されている。

EPO中部の第5期事業（2018年4月から2021年3月まで）においては、「動機づけ」と「見える化」の視点を重視して、①協働コーディネーター育成事業の発展的展開、②地域における持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化を図ることとしており、このために「中部地方の協働・ESD・SDGs（持続可能な開発目標）の活動支援に資するツールとシステムの構築」及び「活動の質と量を拡充するEPO中部としての方策の確立」を達成目標とする。

今年度は第5期事業の2年目となったことから、上記役割を踏まえた目標達成に向けて、第5期としての達成目標及びその方針を明確にした上で、必要な業務を実施した。

(ウ) 実施業務

(1) 業務実施計画等の作成

- ①平成31年度業務計画（第5期事業計画等含む）の作成
- ②達成目標・役割分担の設定
- ③運営会議での協議、HPへの掲載

(2) 運営会議の設置・開催

①EPO 中部運営会議 (8名)

- ・開催準備及び取りまとめ
- ・会議の開催・運営(2回)

②中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議 (6名)

- ・開催準備及び取りまとめ
- ・会議の開催・運営(2回)

(3) 基本業務

①情報の収集・蓄積・発信に関する業務 (ホームページの更新及び維持管理、メールマガジンの作成及び発行、リーフレットの作成及び配布、インターフェイスなどを活用した会議の検討)

②相談対応及び対話の体制の構築に関する業務 (照会・相談対応、対話の体制の構築)

③施設の維持・管理

(4) 協働取組の促進のための業務

①協働コーディネーター育成事業の発展的展開

- ・協働コーディネーターの PR ツールの活用
- ・活動見える化プログラムの構築に向けた検証 (CS : 計 3 事例以上)
- ・地域循環共生圏づくり研究会の開催 (長野 1 回、東海 2 回)

②持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化

- ・活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用 (SNS の活用を含めた情報発信の方法等の検討)
- ・中間支援機能との連携強化のためのフォーラム (対話の場) の開催 (北陸・長野で計 2 回)
- ・地域循環共生圏及び協働取組促進のためのグループワーキング (1 回、15 名、講師 1 名、中部地方環境事務所)

(5) 中部地方 ESD 活動支援センター運營業務

①ESD 活動を支援するための情報共有等

- ・PR ツールの修正・公開
- ・専門家を含めたワーキンググループの開催 (2 回以上、専門家 3 名、EPO 中部)
- ・ESD のための SDGs チェックリストの活用ワークショップの開催 (東海 3 回)

②ESD 活動の支援等 (中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議の開催 : 別途計上)

③ESD のネットワーク形成に関する業務

- ・全国センター主催会議等への出席及び資料提供
 - 企画運営委員会(2回、半日、東京)
 - ESD 活動支援センター全国・地方連絡会 (3 回、半日、東京、1 名旅費支給)
 - ESD 推進ネットワーク全国フォーラム(1回、1日、東京)
- ・ESD 推進のダイアログ (対話の場) の開催 (北陸又は長野・東海で 3 回、ゲスト 2 名)
- ・ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催 (1 回、50 名、ゲスト 2 名、名古屋)

④全国 ESD センターとの連携、地域 ESD 拠点登録支援等

- ・全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携
- ・地域 ESD 拠点登録支援等
- ・地域 ESD 拠点のニーズの把握 (2 事業者以上)

(6) SDGs をツールとした同時解決事業における地域支援事務局業務

①採択団体及び中部地方環境事務所との連携

- ・採択団体との連絡・調整
- ・採択団体との連絡会開催 (3 回、長野県飯山市)

②採択団体の伴走支援

- ③環境省及び全国支援事務局との連携
 - ・月次報告の提出、照会等対応
 - ・会議等への出席
 - 情報共有・成果取りまとめ会議(2回、各半日、東京)
 - 成果共有会(1回、1日、東京、1名分旅費支給)
- ④加速化事業採択案件に対する照会等対応
- (7) EPO 中部のこれまで集積したネットワーク及びノウハウの整理
 - ・第4期までの集積事例の整理
 - ・PR ツール(ウェブサイト含む)の検討
- (8) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務
 - ①多様な主体との協働
 - ②ワークショップの実施
 - ワークショップの実施(2回、富山県内、講師1名)
 - 事後調査の実施
- (9) 関係主体との連携及び協働に関する業務
 - ①中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換
 - ・定期的な打合せ(月1回以上)
 - ・日々の業務報告の提出
 - ・中部地方環境事務所が開催する会議(外部評価委員会を含む)への出席、資料作成等(1回以上)
 - ・EPO 中部行事の記者発表資料の作成(1件以上)
 - ・地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築採択団体の支援等
 - 採択団体へのヒアリング(5団体)
 - 情報収集(今後の地域循環共生圏構築に発展可能性を有する組織3事例以上)
 - 会議への出席(東京都、1回、1名分旅費支給)
 - ②全国の EPO・GEOC・ESD 活動支援センター(全国・地方)のネットワークの活用・連携
 - ・GEOC 主催の全国 EPO 連絡会議(東京1回、中国地方(広島)1回)への参加
 - ・この他に業務の進行管理や連絡調整のために開催される会合等への参加
- (10) 年間業務報告書等の作成
 - ①年間報告書
 - ②四半期報告書
- (11) 外部資金を活用した事業

(エ) 業務の実施概要 (2020年3月13日時点)

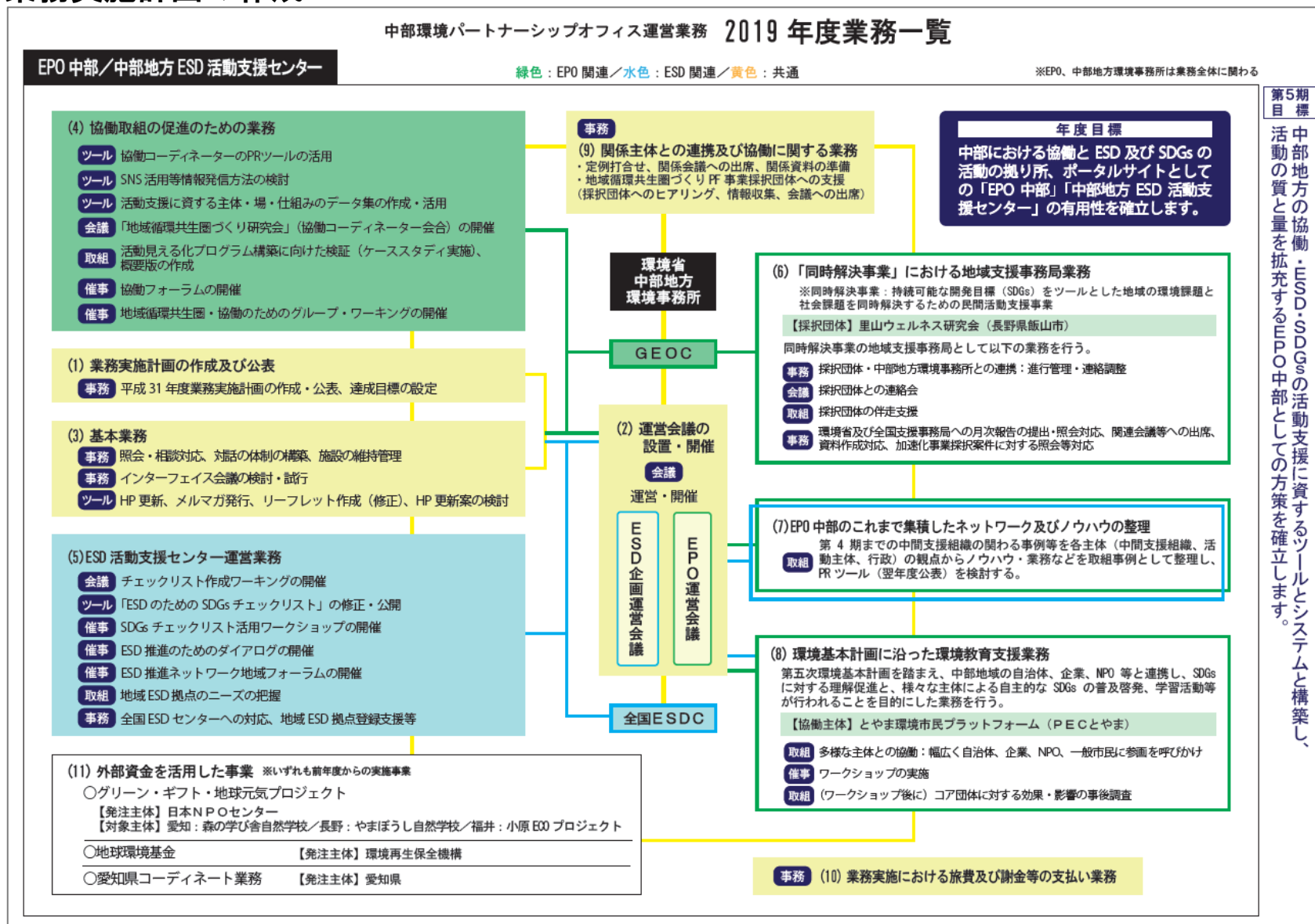
仕様書業務項目	業務内容		実施・開催等の進行状況		
1 業務実施計画作成	1-1	平成31年度業務計画(第5期事業計画等含む)の作成	作成→運営会議に諮問→ウェブに公開		
	1-2	達成目標・役割分担の設定	作成→運営会議に諮問→ウェブに公開		
	1-3	運営会議での協議、HPへの掲載	第1回会議結果のHP掲載	第2回会議結果のHP掲載	
2 運営会議	2-1	EPO中部運営会議の開催・運営【2回】	第1回:6/19	第2回:3/6中止→メールで意見回収	
	2-2	中部ESD企画運営会議の開催・運営【2回】	第1回:6/25	第2回:2/27	
3 基本業務	3-1	HP(EPO、ESD)の更新維持管理	適宜実施	アクセス数(ページビュー数): EPO:810,836件/ESDC:11,521件	
	3-2	HPの更新案の検討	検討案を運営会議に諮問→具体的見積案確認		
	3-3	メールマガジンの作成・発行	適宜実施	毎月1回発行	
	3-4	リーフレットの作成・配布(印刷500部)	H30残部:400部→開館時間の修正→200部増刷→300部増刷		
	3-5	インターフェイス会議の検討	必要条件・機材等を調査→機材の準備→試行打合せ12/13実施		
	3-6	照会・相談対応	適宜実施	相談対応件数:計44件/電話・メールでの相談・照会236件	
	3-7	対話の体制の構築	適宜実施	来館利用件数:計147件(来館者数:269人)	
	3-8	施設の維持・管理	適宜実施	事業実施日数:計244日	
4 協働取組の促進のための業務	4-1	協働コーディネーターPRツールの活用	適宜実施		
	4-2	SNS活用等情報発信方法の検討	Facebookページを5月末に立ち上げ→以後、随時投稿		
	4-3	活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	リスト化→最新データの確認→公開リストの完成→公開		
	4-4	地域循環共生圏づくり研究会の開催【3時間以上2回、1日以上1回】(※運営委員参画)	第1回:8/23	第2回:11/22-23	第3回:2/7
	4-5	活動見える化プログラムの構築に向けた検証【ケーススタディ:北陸/長野・東海で3事例以上】	①小浜市	②飯山事例の改訂版	③南砺市
	4-6	活動見える化プログラムの概要版の作成	上記ケーススタディ3事例のチャート完成		
	4-7	中間支援機能との連携強化フォーラムの開催【北陸・長野で各1回(計2回)(※長野:協働実施)】	第1回:8/7金沢	第2回:11/23飯山	
	4-8	地域循環共生圏・協働取組促進のためのグループワーキングの実施【1回】	1/31実施		
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1	チェックリスト作成ワーキンググループ開催(専門家3名程度)【2回】	第1回:7/17	第2回:10/23	
	5-2	PRツール(SDGsチェックリスト)の修正・公開	WG用ツールを作成→公開	活用→改善→(確認)→公開	
	5-3	SDGsチェックリスト活用ワークショップの開催(※協働コーディネーター活用)【東海地域で計3回】	第1回:5/28日進	第2回:8/29うどん屋	第3回:12/14西濃
	5-4	ESD推進のためのダイアログ(対話の場)の開催【北陸/長野・東海で計3回以上】(※UECパーク等と協働)	第1回:6/13福井	第2回:8/8金沢	第3回:11/16飯田
	5-5	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】(※学生参加促進企画)	11/4開催		
	5-6	地域ESD拠点のニーズの把握【2事業者以上】	①豊橋ユネスコ協会	②JIEL	③ネクストステップ研究会
		地域ESD拠点登録支援等	新たに7団体が登録		
	5-7	全国ESDセンター企画運営委員会【2回程度】	第1回:7/8	第2回:中止→メール応答で実施	
		ESD活動支援センター(全国・地方)連絡会【3回程度】	第1回:5/16	第2回:10/17	第3回:1/15
		全国ESDフォーラム【1回】	12/20-21		
5-8	全国ESDセンター等との連携(情報提供、アンケート実施支援など)	適宜実施			

仕様書業務項目	業務内容		実施・開催等の進行状況		
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1	採択団体・中部地方環境事務所との連携：進行管理・連絡調整	適宜実施		
	6-2	採択団体との連絡会【3回程度】	第1回：4/24	第2回：7/4	第3回：11/1
	6-3	採択団体の伴走支援、スケジュール・月次報告・成果共有会資料・事業報告書(結果分析)等の作成支援	GEOCフォーマットに則り適宜実施		
	6-4	環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出、照会対応	GEOCフォーマットに則り適宜実施 ※月次報告(採択団体)：毎月作成支援		
	6-5	情報共有・成果とりまとめ会議への出席【2回】と資料作成対応	第1回：6/21	第2回：11/19	
		成果共有会への出席【1回】と資料作成対応	2/23開催		
6-6	加速化事業採択案件に対する照会等対応	適宜実施(照会0件)			
7 集積ノウハウ等の整理	第4期までの集積事例の整理		報告書データをリストと照合整理	イベントのタグ付けワード抽出	
	PRツール(ウェブサイト含む)の検討		タグ付け表の完成		
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1	多様な主体との協働	適宜実施		
	8-2	ワークショップの実施【2回】	第1回：8/26	第2回：11/28	
	8-3	コア団体への事後調査	ワークショップ終了後～2月まで調査：13事例確認		
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1	事務所担当官と業務の責任者として定期的な打合せ・報告、資料作成対応	適宜実施	打合せ：毎月1回実施	
	9-2	中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	外部評価委員会：1/30		
	9-3	記者発表の実施準備【1件以上】	①11/4ESDフォーラムのリリース資料作成(10/2投げ込み) ②11/23協働フォーラムのチラシをローカルメディアに送付		
	9-4-1	プラットフォーム構築事業の採択団体へのヒアリング	①七尾：11/12、②富山：11/13、③小布施：11/24、④尾鷲：11/28、⑤根羽：11/29に実施		
	9-4-2	地域循環共生圏事例の情報収集、ヒアリング【3事例以上】	①南砺市：8/26実施	②垂井町：1/21実施	③上市町：2/7実施
	9-4-3	プラットフォーム構築事業関連会議への出席【1回】	12/19開催・ヒアリング結果とりまとめ会合に出席		
9-5	GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他関連会議等への参加・協力	連絡会①：6/25-27	連絡会②：1/16		
10	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務		適宜実施		
11 外部資金を活用した事業	11-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト	【イベント開催】愛知：①5/11、長野：①6/8・②9/28、福井：①7/13・②9/7		
	11-2	地球環境基金	【説明会開催】10/15	【審査委員】寺田氏推薦	
	11-3	愛知県コーディネート業務：相談業務15件、コーディネート業務10件	【相談業務】17件実施、【コーディネート業務】10件実施済み		

1 業務実施計画の作成及び公表

(1) 2019 年度の業務実施計画の作成

(ア) 業務概要図



(イ) 業務スケジュール

			2019年度業務スケジュール													
仕様書業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1 業務実施計画作成	1-1 平成31年度業務計画(第5期事業計画等含む)の作成	富田	作成・更新		■◆◆ 運営会議への提示		修正等 →公開									
	1-2 達成目標・役割分担の設定	原														
	1-3 運営会議での協議、HPへの掲載	富田														
2 運営会議	2-1 EPO中部運営会議の開催・運営【2回】	富田、原、清本	会議資料作成		■第①回運営会議開催		開催結果とりまとめ→公開		会議資料作成		■第②回運営会議開催		開催結果とりまとめ→公開			
	2-2 中部ESD企画運営会議の開催・運営【2回】	富田、原、清本	会議資料作成		◆第①回運営会議開催		開催結果とりまとめ→公開		会議資料作成		◆第②回運営会議開催		開催結果とりまとめ→公開			
3 基本業務	3-1 HP(EPO、ESD)の更新維持管理	富田	月2回以上の更新を適宜実施													
	3-2 HPの更新案の検討	富田	企画案等を作成		■◆◆①運営		7月期) 全業務の簡易報告書提出		ウェブサイトリニューアルに関する検討		10月期) 全業務の簡易報告書提出		1月期) 全業務の簡易報告書提出		実施対応結果等とりまとめ	
	3-3 メールマガジンの作成・発行	小松	月1回以上の配信を適宜実施													
	3-4 リーフレットの作成・配布(印刷500部)	富田、小松	※残部400部: 開館時間修正(シール対応)		修正確認		作成・更新		印刷							
	3-5 インターフェイス会議の検討	富田、小松	使用アプリ、機材等の検討・確認													
	3-6 照会・相談対応	富田、原、清本	適宜実施し、記録及び報告													
	3-7 対話の体制の構築	富田、原、清本	適宜実施し、記録及び報告													
	3-8 施設の維持・管理	富田、小松	適宜実施													
4 協働取組の促進のための業務	4-1 協働コーディネーターPRツールの活用	富田	PRと照会対応													
	4-2 SNS活用等情報発信方法の検討	富田	企画案等を作成		ウェブサイトリニューアル、SNS活用に関する検討		前年度収集データの整理・確認		コンテンツ案・構成等の作成、公開スケジュールの検討							
	4-3 活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	富田、小松														
	4-4 地域循環共生圏づくり研究会の開催【3時間以上2回、1日以上1回】(※運営委員参画)	富田、小松	開催企画案等を作成		■①運営会議に諮る		調整		研究会①開催		研究会②開催		研究会③開催		■②運営会議に諮る	
	4-5 活動見える化プログラムの構築に向けた検証【ケーススタディ: 北陸/長野/東海で3事例以上】	原	実施企画案等を作成		調整		ケーススタディ 実施→とりまとめ		概要版の作成		研究会、Gワーキングで紹介					
	4-6 活動見える化プログラムの概要版の作成	原														
	4-7 中間支援機能との連携強化のためのフォーラム開催【北陸・長野で各1回(計2回)】(※長野: 協働実施)	原、富田、小松	調整・準備		フォーラム①開催(金沢)		調整・準備		フォーラム②開催(飯山)							
	4-8 地域循環共生圏・協働取組促進のためのグループワーキングの実施【1回】	原、富田、小松	調整・準備													
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1 チェックリスト作成ワーキンググループ開催(専門家3名程度)【2回】	原			作成WG①				作成WG②							
	5-2 PRツール(SDGsチェックリスト)の修正・公開	原、富田			活用・検証				修正		公開					
	5-3 SDGsチェックリスト活用ワークショップの開催(※協働コーディネーター活用)【東海地域で計3回】	原	ワークショップ①		ワークショップ②				ワークショップ③							
	5-4 ESD推進のためのダイアログの開催【北陸/長野/東海で計3回以上】(※Uエコパーク等と協働)	原、富田、小松	調整・準備		ダイアログ①開催(福井)		調整・準備		ダイアログ②開催(金沢)		ダイアログ③開催(飯田)		◆②企画運営会議に諮る			
	5-5 ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】(※学生参加促進企画)	原、富田、小松			◆①企画運営会議に諮る		フォーラム企画		フォーラム開催							
	5-6 地域ESD拠点登録支援等、ニーズの把握【2事業者以上】	原	登録支援等		ヒアリング等①		ヒアリング等②		ヒアリング等③		フォーラム開催					
	5-7 ESDセンター運営会議【2回】、連絡会【3回】、全国ESDフォーラム【1回】等に出席・参加	原、富田	適宜対応													
	5-8 全国ESDセンター等との連携(情報提供、アンケート実施支援など)	原、富田、小松	適宜対応													

2019年度業務スケジュール

仕様書業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1	採択団体・中部地方環境事務所との連携・進捗管理・連絡調整	富田	適宜実施	→											
	6-2	採択団体との連絡会【3回程度】	富田、原、清本	連絡会①	→				連絡会②	→				連絡会③	→	
	6-3	採択団体の伴走支援、スケジュール・月次報告・成果共有会資料・事業報告書(結果分析)等の作成支援	富田	適宜実施	EPO支援の提案	事業のアウトプット化に向けた支援	→	→	→	→	→	→	→	→	→	
	6-4	環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出、照会対応	富田	適宜実施	→											
	6-5	情報共有・成果とりまとめ会議【2回】、成果共有会【1回】への出席、資料作成対応	富田	適宜実施	→											
	6-6	加速化事業採択案件に対する照会等対応	富田	適宜実施	→											
7	EPO中部のこれまでに集積したネットワーク及びノウハウの整理	原、富田	実施企画案等を作成	◆①運営会議に諮る	集積事例・データ等の整理・分析	→	→	→	→	→	→	→	→	→		
環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1	多様な主体との協働	清本、原	業務内容の確認	前年度の取組の確認、活用方法の検討	→										
	8-2	ワークショップの実施【2回】	清本、原	設定テーマ等について検討	調整等	WS①開催	調整等	WS②開催	実施結果とりまとめ	→						
	8-3	コア団体への事後調査	清本、原	→									事後調査の実施	調査結果とりまとめ	→	
関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1	事務所担当官と業務の責任者との定期的な打合せ・報告、資料作成対応	清本、原、富田	適宜対応(原則月1回以上の打合せを実施)	→											
	9-2	中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	清本、原、富田	適宜対応	→											
	9-3	記者発表の実施準備【1件以上】	富田	適宜対応	→											
	9-4-1	プラットフォーム構築事業の採択団体へのヒアリング	清本、富田	→						5団体へのヒアリング実施	ヒアリング結果とりまとめ	→				
	9-4-2	地域循環共生圏事例の情報収集、ヒアリング【3事例以上】	清本、富田	→						ヒアリングの実施①:南砺市	ヒアリングの実施②:垂井町	ヒアリングの実施③:上市町	→			
	9-4-3	プラットフォーム構築事業関連会議への出席【1回】	清本、富田	→									会議出席	→		
9-5	GECC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他関連会議等への参加・協力	清本、富田	適宜対応	→												
10	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	小松	適宜実施	→												
11 外部資金を活用した事業	11-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト	清本	→												
	11-2	地球環境基金:未定	清本	→												
	11-3	愛知県コーディネート業務:未定	清本、原	→												

実施・開催結果報告とりまとめ

(ウ) 定量的な達成目標の設定

- 定量的な達成目標としてアウトプット評価一覧表を作成した。

仕様書業務項目	業務内容		アウトプット(*は暫定または予定)			アウトカム(*は暫定)		備考
			コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	アウトカム評価	評価判定	
1 業務実施計画作成	1-1	平成31年度業務計画(第5期事業計画等含む)の作成	計画作成			地域循環共生圏を意識した業務遂行計画として事業推進の基準が見える化された。	B	
	1-2	達成目標・役割分担の設定	目標・分担作成			それぞれの業務についてアウトプット、アウトカムの評価が可能となった。	B	
	1-3	運営会議での協議、HPへの掲載	計画のHP掲載			計画のWebページ掲載により透明性が確保された。	B	
2 運営会議	2-1	EPO中部運営会議の開催・運営【2回】	*記録作成			運営委員より有用な意見をいただいた。座長の協働ワークショップ参加、委員の業務への積極的な参画を得て効果的な活動展開に寄与いただいた。	*A	
	2-2	中部ESD企画運営会議の開催・運営【2回】	*記録作成			運営委員より有用な意見をいただいた。座長のフォーラム参加、SDGsチェックリスト作成、ダイアログ企画に参加いただくなど、業務に積極的な参画を得て効果的な活動展開に寄与いただいた。	*A	
3 基本業務	3-1	HP(EPO、ESD)の更新維持管理	*月2回以上更新	FB立ち上げ	月1万~4万件から月7万~10万件に増加	FB立ち上げによりPV数が増加したことでHPによるEPO、ESDCの認知の拡大と好感度の向上があったと考えられる。	*A	
	3-2	HPの更新案の検討	HP更新案作成			HP更新案について肯定的評価(予定)	*B	
	3-3	メールマガジンの作成・発行	月1回発行			順調に発行しており、否定的な意見は現れていない。	B	
	3-4	リーフレットの作成・配布(印刷500部)	*作成					
	3-5	インターフェイス会議の検討	試行実施、報告書作成		実施	課題として準備に手間がかかること、タイムラグを考慮する必要があること、など実用化に向けての知見を得た。	B	
	3-6	照会・相談対応	*記録簿作成		*32件(12月末現在。前年度同時期33件)	相談件数は前年度と同水準。そのうちSDGs普及啓発につながるなど展開効果の実例が複数あった。	*B	
	3-7	対話の体制の構築	*取材記録作成		*取材記録、記事16件	取材数と記事数は増加し、連携協働体制ノウハウ蓄積が推進された。	*B	
	3-8	施設の維持・管理		*良好な空間を維持		職員が快適に作業できた。来訪者も快適に過ごせている。	*A	
4 協働取組の促進のための業務	4-1	協働コーディネーターPRツールの活用						
	4-2	SNS活用等情報発信方法の検討	*報告書作成	FB立ち上げ		FB立ち上げにより今後の発信ツールが整備された。	A	
	4-3	活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	*データ集作成					
	4-4	地域循環共生圏づくり研究会の開催【3時間以上2回、1日以上1回】(※運営委員参画)	*研究会開催記録作成		1回コ11人 2回コ7人、専1人 *3回コ10人、専1人(予定)	密度の高い議論を実施。協働コーディネーターの意識の向上が認められた。	*A	
	4-5	活動見える化プログラムの構築に向けた検証【ケーススタディ:北陸/長野/東海で3事例以上】	4箇所6ケースのケーススタディの分析結果	分析表(フォーマット)の作成	ケーススタディ検討参加者計4人	ケーススタディは6ケースと予定を上回り、関係者から行政に説明するにあたり分析結果はわかりやすいとの評価をいただいた。経験が要求されるため分析はEPO中部が担当し、協働コーディネーターは結果を説明ツールとして活用することが現実的との結果が得られた。	B	
	4-6	活動見える化プログラムの概要版の作成	活動見える化プログラムの説明資料	4箇所(6ケース)の分析チャート		分析チャートについては、関係者から活動について地域循環共生圏とSDGsの意義が見える化されているとの評価をいただき、分析チャート1枚で表現できるプログラムとなった。	B	
	4-7	中間支援機能との連携強化のためのフォーラム開催【北陸・長野で各1回(計2回)(※長野:協働実施)】	記録作成(2回) Web上での掲載発信		1回30人 2回29人	アンケートでは肯定的積極的な回答結果が得られ、参加者の意識向上、認知拡大、知見増加に効果があった。	B	
	4-8	地域循環共生圏・協働取組促進のためのグループワーキングの実施【1回】	*記録作成 Web上での掲載発信		*21人			

仕様書業務項目	業務内容		アウトプット(*は暫定または予定)			アウトカム(*は暫定)		備考
			コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	アウトカム評価	評価判定	
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1	チェックリスト作成ワーキンググループ開催(専門家3名程度)【2回】	WG開催記録各回作成	チェックリスト基本段階版WSパッケージ作成、事業所活用版作成	開催2回、専門家出席各3名	有用なご意見やご提案をいただくことにより、チェックリストを活用したWSパッケージが作成された。	A	
	5-2	PRツール(SDGsチェックリスト)の修正・公開	初年度版Web掲載 *修正改善版、WSパッケージ、事業所活用版公開		*初年度版閲覧数〇件	Web閲覧数は多く、チェックリストは活用されていると推定される。また別の交流会でツールに対する高評価をいただくなど活用が拡大している。	*A	
	5-3	SDGsチェックリスト活用ワークショップの開催(※協働コーディネーター活用)【東海地域で計3回】	WS開催記録各回作成(3回)		1回41人 2回21人 3回23人 番外1:37人 番外2:10人 番外3:35人	全6回のWSを実施しツールの改善と効果の検証を行うことができた。合計167人の参加が得られSDGsの普及が拡大した。アンケートからは参加者の認識向上の結果が得られた。協働コーディネーターからツールとワークショップパッケージに高評価をいただいた。	A	
	5-4	ESD推進のためのダイアログの開催【北陸/長野・東海で計3回以上】(※UEコパーク等と協働)	開催記録作成(3回)Web上での掲載発信		1回24人専2人 2回54人専2人 3回36人専5人	アンケートでは肯定的積極的な回答結果が得られ、参加者の意識向上、認知拡大、知見増加に効果があった。	B	
	5-5	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】(※学生参加促進企画)	記録作成Web上での掲載発信		52人専3人	アンケートでは肯定的積極的な回答結果が得られ、参加者の意識向上、認知拡大、知見増加に効果があった。	B	
	5-6	地域ESD拠点登録支援等、ニーズの把握【2事業者以上】	ヒヤリング報告作成		4か所	予定以上の3つの拠点にヒヤリングした結果、本音ベースの知見を得た。	A	
	5-7	ESDセンター運営会議【2回】、連絡会【3回】、全国ESDフォーラム【1回】等に出席・参加	各回会議に参加			全国の動向、世界の動き、国の施策、ESD拠点のアンケート結果など有用な情報を共有した。	B	
	5-8	全国ESDセンター等との連携(情報提供、アンケート実施支援など)	情報を共有		昨年度より2拠点増	拠点数は増加したものの設定されていない県がある。また拠点の意見として情報発信が物足りない、などの指摘があった。	*C	
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1	採択団体・中部地方環境事務所との連携:進行管理・連絡調整				事業者と緊密に連携し、適切な助言、分析支援等を行うことによりモデル事業が円滑に進行した。	*A	
	6-2	採択団体との連絡会【3回程度】	記録作成		3回実施	連絡会における緊密な意見交換によりモデル事業が円滑に進行した。	*A	
	6-3	採択団体の伴走支援、スケジュール・月次報告・成果共有会資料・事業報告書(結果分析)等の作成支援	結果分析作成			ドキュメントの作成スケジュールを積極的に行うとともに、骨組みの提案をするなどの作成支援を実施した。伴走支援により事業者及び関係者の理解が促進し、今後の事業展開における提案やアイデアが新しく出ている。	*A	
	6-4	環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出、照会対応	月次報告作成			月次報告の提出など全国支援事務局との情報共有を適切に実施	*B	
	6-5	情報共有・成果とりまとめ会議【2回】、成果共有会【1回】への出席、資料作成対応	会議資料等作成			成果とりまとめや会議の参加、資料の作成など、全国支援事務局事業への協力を適切に実施	*B	
	6-6	加速化事業採択案件に対する照会等対応	照会に対応			具体的照会に対応したほか、成果物を配布するなど加速化事業事例の活用と認知の拡大に努めた。	*B	
7	EPO中部のこれまでに集積したネットワーク及びノウハウの整理	報告書をリスト化。過去のイベント事例を整理。登壇者を抽出。				報告書をリスト化、過去のイベント事例を整理、登壇者を抽出することにより、今後の活動に資する知見を整理した。	B	

仕様書業務項目	業務内容		アウトプット(*は暫定または予定)			アウトカム(*は暫定)		備考
			コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	アウトカム評価	評価判定	
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1	多様な主体との協働	*報告書作成			南砺市、GDP、青木建設などSDGsに取り組む多様な団体と協働、参加者のSDGs認識、活動に貢献した。	*A	
	8-2	ワークショップの実施【2回】	*開催記録作成		1回〇人専2人 2回41人専2人	*アンケートでは～などの結果が得られ、参加者の認知拡大、知見増加に効果があった。	*A	
	8-3	コア団体への事後調査	*事後調査報告書作成					
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1	事務所担当官と業務の責任者などで定期的な打合せ・報告、資料作成対応	月次報告を各月作成			定常的に密な連絡と情報共有を維持。円滑な運営に寄与。	A	
	9-2	中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	事務所開催会議に出席、対応			管内会議に出席、EPO内容のブレゼンを実施し、円滑な運営に寄与。	A	
	9-3	記者発表の実施準備【1件以上】	記者発表実施(1回)		プレスリリース2回(うち1回はチラシのみ)	EPO中部の認知度の向上に寄与	B	
	9-4	プラットフォーム構築事業の採択団体との連携	情報交換記録作成、採択団体5件、可能性団体3件			関係団体の情報を把握	B	
	9-5	GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他関連会議等への参加・協力	GEOC主催会議各回に参加			GEOC事業に協力	B	
10	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務							
11 外部資金を活用した事業	11-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト						
	11-2	地球環境基金:未定						
	11-3	愛知県コーディネート業務:未定						

(エ) 参画する各主体の役割分担の明確化

- 2019年度開催のフォーラム、ダイアログ等主催イベントをはじめとする主なプロジェクトの個票を作成し、どのような主体と協働・連携するかなどの企画検討を行った。

令和元年度業務 主要プロジェクト評価個票No.4-A ■EPO 中部 □ESD 活動支援センター							
分類	4 協働取組の促進のための業務						
プロジェクト	4-A 活動見える化プログラムの構築						
	表番号 業務内容(仕様:インプット)						
	4-5 活動見える化プログラムの構築に向けた検証【ケーススタディ:北陸/長野・東海で3事例以上】						
	4-6 活動見える化プログラムの概要版の作成						
活動実績	<p>下記事例について分析しつつ分析表を改善、活動見える化プログラムを構築した。</p> <p>ケース1:同時解決事業・里山保全体験を通じた障がい者雇用促(長野県飯山市)</p> <p>ケース1-1:初年度の成果(2019年3月時点)</p> <p>ケース1-2:2年目の成果(2019年12月時点)</p> <p>ケース2:高校と連携したアブラギリ(桐油)資源化活動(福井県小浜市)</p> <p>ケース3:南砺市エコビレッジによるまちづくり(富山県南砺市)</p> <p>ケース3-1:エコビレッジ推進事業としてのこれまでの取組み(~2019年度)</p> <p>ケース3-2:SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業としてのこれからの取組み(2019年度~)</p> <p>ケース4:地域内エコシステム@宇奈月(富山県黒部市)</p>						
	<p>分析結果の例(概要版) 地域内エコシステム@宇奈月(富山県黒部市)</p>						
主要アウトプット	<table border="1"> <tr> <td>コンテンツ等、情報の発信</td> <td>設備・システム・知見など</td> <td>参加者(数)、対象者(数)など</td> </tr> <tr> <td>4箇所6ケースのケーススタディの分析結果 活動見える化プログラムの説明資料</td> <td>分析表(フォーマット)の作成</td> <td>ケーススタディ検討参加者計4人</td> </tr> </table>	コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	4箇所6ケースのケーススタディの分析結果 活動見える化プログラムの説明資料	分析表(フォーマット)の作成	ケーススタディ検討参加者計4人
コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など					
4箇所6ケースのケーススタディの分析結果 活動見える化プログラムの説明資料	分析表(フォーマット)の作成	ケーススタディ検討参加者計4人					
アウトカム	<p>ケーススタディは6ケースと予定を上回り、関係者から行政に説明するにあたり分析結果はわかりやすいとの評価をいただいた。経験が要求されるため分析はEPO中部が担当し、協働コーディネーターは結果を説明ツールとして活用することが現実的との結果が得られた。</p> <p>分析チャートについては、関係者から活動について地域循環共生圏とSDGsの意義が見える化されているとの評価をいただき、分析チャート1枚で表現できるプログラムとなった。</p>						
備考	自己評価 B						

令和元年度業務

主要プロジェクト評価票No.4-B

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務		
プロジェクト	4-B フォーラム、グループワーキングの開催		
	表番号	業務内容 (仕様:インプット)	
	4-7	中間支援機能との連携強化のためのフォーラム開催【北陸・長野で各1回(計2回)】(※長野:協働実施)	
	4-8	地域循環共生圏・協働取組促進のためのグループワーキングの実施【1回】	
活動実績	<p>フォーラム1:地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム in 金沢 日時 2019年8月7日(水)13:00~16:30 場所 金沢勤労者プラザ 4階 406 研修室</p> <p>フォーラム2:地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム in 飯山 信州の地域循環共生圏づくりと協働取組 日時 2019年11月23日(土・祝)12:00~15:00 場所 なべくら高原森の家(長野県飯山市照岡 1571-15)</p> <p>グループワーキング:環境省EPO中部主催・地域循環共生圏づくりセミナー 地域循環共生圏づくりでローカルSDGsを考える 日時 2020年1月31日(金)13:30~17:00 場所 環境省中部地方環境事務所 第1会議室</p> <p>各回の開催チラシ</p> 		
アウトプット	コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など
	開催記録作成(各回) Web上での掲載発信		フォーラム第1回 30人 フォーラム第2回 29人 グループワーキング 21人
アウトカム	合計90人の参加を得ることができ、協働のための交流が行われた。アンケートでは肯定的積極的な回答結果が得られ、参加者の意識向上、認知拡大、知見増加に効果があった。		自己評価 B
備考			

令和元年度業務

主要プロジェクト評価個票No.5-A


□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務		
プロジェクト	5-A SDGs チェックリストの作成と検証		
	表番号	業務内容 (仕様: インプット)	
	5-1	チェックリスト作成ワーキンググループ開催 (専門家3名程度) 【2回】	
	5-2	PR ツール (SDGs チェックリスト) の修正・公開	
	5-3	SDGs チェックリスト活用ワークショップの開催(※協働コーディネーター活用) 【東海地域で計3回】	
活動実績	<p>ワーキンググループ開催</p> <p>専門家: 中部大学准教授 古澤礼太、名古屋市立大学准教授 曾我幸代、中部大学准教授 伊藤佳世</p> <p>WG 1: 日時 2019年7月17日(水) 16:00~17:30 場所 EPO 中部</p> <p>WG 2: 日時 2019年10月23日(水) 16:00~17:30 場所 EPO 中部</p> <p>SDGs チェックリスト活用ワークショップの開催 (協働コーディネーター活用)</p> <p>WS 1: 日時 2019年5月28日(火) 10:00~12:00 場所 日進市役所第5会議室 (愛知県日進市) 協働コーディネーター2人参加</p> <p>WS 2: 日時 2019年8月29日(木) 15:00~17:00 場所 大久手山本屋 (愛知県名古屋市) 協働コーディネーター3人参加</p> <p>WS 3: 日時 2019年12月14日(土) 16:00~18:00 場所 大垣市多目的交流イベントハウス 3階 (岐阜県大垣市) 協働コーディネーター3人参加</p> <p>番外1: 日時 2019年6月15日(土) 13:00~16:00 場所 ハートフルスクエアG 中研修室 (岐阜県岐阜市)</p> <p>番外2: 日時 2019年8月31日(土) 場所 一般社団法人日本体験学習研究所 (JIEL) (愛知県名古屋市)</p> <p>番外3: 日時 2019年11月25日(月) 場所 日進市役所第5会議室 (愛知県日進市)</p> <p>公開 (予定) の改良型 SDGs チェックリスト、ワークシート、WS パッケージ (スライド表紙)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		
アウトプット	コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など
	WG 開催記録各回作成 初年度版 Web 掲載 修正改善版、WS パッケージ、事業所活用版公開 WS 開催記録各回作成 (3回)	チェックリスト基本段階版 WS パッケージ作成、事業所活用版作成	WG 開催 2回、専門家出席各3名 WS 1回 41人 番外1: 37人 2回 21人 番外2: 10人 3回 23人 番外3: 35人
アウトカム	WG では有用なご意見やご提案をいただくことにより、チェックリストを活用した WS パッケージが作成された。 Web 閲覧数は多く、チェックリストは活用されていると推定される。また別の交流会でツールに対する高評価をいただくなど活用が拡大している。 全6回のWSを実施しツールの改善と効果の検証を行うことができた。合計167人の参加が得られ SDGs の普及が拡大した。アンケートからは参加者の認識向上の結果が得られた。協働コーディネーターからツールとワークショップパッケージに高評価をいただいた。		自己評価 A
備考			

令和元年度業務

主要プロジェクト評価個票No.5-B

□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務		
プロジェクト	5-B ダイアログ、フォーラムの開催		
	表番号	業務内容（仕様：インプット）	
	5-4	ESD 推進のためのダイアログの開催【北陸/長野・東海で計3回以上】（※Uエコパーク等と協働）	
5-5	ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】（※学生参加促進企画）		
活動実績	<p>ダイアログ1：ESD 推進のためのダイアログ北信越ユネスコスクール交流会 in金沢 2019 日時 2019年8月8日（木）13:30～16:30 場所 金沢勤労者プラザ101 研修室</p> <p>ダイアログ2：企業や団体のSDGs 推進のためのESD～職員意識が組織・地域を変える～ 日時 2019年6月13日（木）13:30～16:30 場所 福井県国際交流会館第2会議室</p> <p>ダイアログ3：ユネスコエコパークを活かしたESDによる地域創生 日時 2019年11月16日（土）13:30～16:30 場所 飯田市役所C311-313号会議室</p> <p>フォーラム：ユースと社会人のためのESD 推進ネットワーク地域フォーラム ・世代間交流によるSDGs 貢献のための人づくり 日時 2019年11月4日（月・祝）13:30～16:30 場所 ウィンクあいち1103（愛知県名古屋市）</p> <p>各回の開催チラシ</p> 		
アウトプット	コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者（数）、対象者（数）など
	開催記録作成（各回） Web上での掲載発信		ダイアログ第1回 24人 ダイアログ第2回 54人 ダイアログ第3回 36人 フォーラム 52人
アウトカム	合計166人の参加を得、ESD・SDGsの意義を普及させることができた。 アンケートでは肯定的積極的な回答結果が得られ、参加者の意識向上、認知拡大、 知見増加に効果があった。		自己評価 B
備考			

(オ) 地域循環共生圏に関する反映

- 前項「参画する各主体の役割分担の明確化」では、地域循環共生圏をテーマにしたフォーラム・セミナーの開催、及び地域循環共生圏関連事業に採択された主体が登壇する企画を盛り込んだ。

(2) 運営会議での協議

- 業務実施計画、業務スケジュール、アウトプット目標一覧表などは、各運営会議に諮った上で確定とした。

【中部環境パートナーシップオフィス運営会議】

	開催日	協議の実施
第1回会議	6月19日	「2019年度業務及びスケジュール」「アウトプット目標」等について協議を行い、内容についての了解を得て確定とした。

【中部地方ESD活動支援センター企画運営会議】

	開催日	協議の実施
第1回会議	6月25日	「2019年度業務及びスケジュール」「アウトプット目標」等について協議を行い、内容についての了解を得て確定とした。

(3) ホームページへの掲載

- 作成した2019年度の業務計画等については、EPO中部ウェブサイト、中部地方ESD活動支援センターウェブサイトにそれぞれ掲載・公開した。

【EPO中部ウェブサイト】

業務実施計画

- [2019年度 業務実施計画等](#) 
- [第5期事業計画と2018年度業務実施計画](#) 
- [平成29年度 業務実施計画](#) 
- [平成28年度 業務実施計画](#) 
- [平成27年度 業務実施計画](#) 
- [平成26年度 業務実施計画](#) 
- [平成25年度 業務実施計画](#) 

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

2019.09.13 センター概要 事業報告

2019年度の中部地方ESD活動支援センターの業務計画について

中部地方ESD活動支援センター（及びEPO中部）の2019年度の業務計画をご紹介します。

【2019年度業務計画】

業務一覧、業務スケジュール、業務の目標アウトプット等をまとめた資料です。



※参考）第5期（2018年度～2020年度の3か年）の事業計画は[コチラ](#)を参照してください。



2 運営会議の設置・開催

(1) EPO 中部運営会議

ア 第1回会議

① 日時

- 6月19日（水）13:00～16:00

② 場所

- 中部地方環境事務所第1会議室

③ 出席者

（委員）

氏名	所属	役職
加藤 義人	岐阜大学	客員教授
新 広昭	金沢星稜大学経済学部	教授
田辺 友也	認定NPO法人まちづくりスポット	専務理事
千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部	教授
中里 茂	のと共栄信用金庫	顧問
松井 真理子	四日市大学総合政策学部	教授
山室 秀俊	(NPO法人)長野県NPOセンター	事務局長
萩ノ脇 裕司	中部地方環境事務所環境対策課	課長



※森山委員は、都合により御欠席

（事務局） 福井理事長、清本事務局長、原、富田
（中部地方環境事務所）溝手係長、西田主査

④ 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 運営会議設置要綱（改訂／変更なし）の確認
3. EPO 中部の2019年度業務の説明
 - (1)2019年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標等）について
 - (2)協働コーディネーター活用展開（地域循環共生圏づくり研究会）について
 - (3)「活動見える化プログラム」構築（実施するケーススタディ）について
 - (4)主催フォーラム等開催イベントについて
 - (5)広報関係の展開（作成ツール、ウェブサイトリニューアル）について
 - (6)その他業務について
4. 意見交換
5. その他
6. 閉会

⑤ 会議資料

- 資料1：運営会議設置要綱（改訂案）
資料2：2019年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標）
資料3：2019年度業務の事務局展開案説明資料
参考資料1：仕様書概要
参考資料2：地域循環共生圏づくり研究会設置要綱案、協働コーディネーター活用状況
参考資料3：過去のEPO中部関連報告書一覧リスト

イ 第2回会議

- 第2回EPO中部運営会を3月6日(金)13:30~16:30での開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止に関わる政府方針等を鑑み、中部地方環境事務所と協議のうえ、書面会議を実施した。
- 委員には、会議資料の一部と意見記入票を送付し、意見を返信する旨の依頼を行った。委員からは5名の意見回答があった。

ウ EPO 中部運営会議開催結果のウェブサイトへの掲載

(ア) 第1回会議の議事概要

- 作成した第1回会議の議事概要を、各委員に確認した上で、EPO中部ウェブサイトに公開した。
- また、委員の肩書き変更に伴い、設置要綱の改訂版をウェブサイトに掲載した。

(イ) 第2回会議中止に伴い配布・回収した意見記入票

- 委員から送付のあった意見記入票を一覧表にとりまとめ、ウェブサイトに公開した。

【EPO 中部ウェブサイト】

運営会議

運営会議の設置

EPO中部は、多様なステークホルダーが構成する運営会議を年2回開催し、事業の検討、協議、評価を行っています。

また、運営会議委員が提案する協働取組や、各地域で実施すべき協働取組を、EPO中部の機能を使って実施できるスキームを持っています。

■第5期運営会議委員■ (氏名五十音順、敬称略)

- 加藤 義人氏 (岐阜大学客員教授)
- 新 広昭氏 (金沢星稜大学経済学部教授)
- 田辺 友也氏 (NPO法人まちづくりスポット専務理事)
- 千頭 聡氏 (日本福祉大学国際福祉開発学部教授) (座長)
- 中里 茂氏 (のと共栄信用金庫顧問)
- 松井 真理子氏 (四日市大学総合政策学部教授)
- 森山 奈美氏 (いしかわ地域づくり協会コーディネーター)
- 山室 秀俊氏 (NPO法人長野県NPOセンター事務局長)
- 萩ノ脇 裕司氏 (中部地方環境事務所環境対策課長)


規約


第5期 (2018~2020年度) 運営会議設置要綱 [📄](#)


平成29年度 運営会議設置要領 [📄](#)


平成29年度 運営会議委員名簿 [📄](#)

議事録

○ 2019年度 第2回運営会議（書面会議）委員意見 

○ 2019年度 第1回運営会議議事録 

○ 2018年度（平成30年度）第3回運営会議議事録 

○ 2018年度（平成30年度）第2回運営会議議事録 

(2) 中部地方 ESD 活動支援センター 企画運営会議

ア 第1回会議

① 日時

- 6月25日（火）13:30～16:30

② 場所

- 中部地方環境事務所第1会議室

③ 出席者

（委員）



氏名	所属	役職
伊藤 恭彦	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科	副学長
加藤 隆弘	北陸 ESD 推進コンソーシアム(金沢大学)	ESD コーディネーター(准教授)
杉浦 真理子	株式会社アクト	代表取締役
戸成 司朗	一般社団法人中部 SDGs 推進センター	代表理事
彦坂 永利子	愛知県教育委員会 生涯学習課	課長補佐
古澤 礼太	中部 ESD 拠点協議会(中部大学国際 ESD センター)	事務局長(准教授)
水谷 瑞希	信州 ESD コンソーシアム(信州大学教育学部)	助教
萩ノ脇 裕司	中部地方環境事務所環境対策課	課長

(事務局) 福井理事長、清本事務局長、原、富田

(中部地方環境事務所) 溝手係長

④ 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 企画運営会議設置要綱（改訂）の確認
3. 中部地方 ESD 活動支援センターの活動戦略方針（案）の説明
4. 中部地方 ESD 活動支援センターの2019年度業務の説明
 - (1) 2019年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標等）について
 - (2) SDGs チェックリストの作成（検証・改善）と作成WGについて
 - (3) 主催イベントの企画案について
 - (4) その他業務について
5. 意見交換

- 6. その他
- 7. 閉会

⑤ 会議資料

資料1：企画運営会議設置要綱（改訂案）
 資料2：中部地方ESD活動支援センターの活動戦略方針（案）
 資料3：2019年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標）
 資料4：2019年度業務（事務局展開案）の説明資料
 参考資料1：仕様書概要
 参考資料2：2019年度第1回ESD活動支援センター（全国・地方）連絡会の会議資料

イ 第2回会議

① 日時

- 2月27日（木）13：30～16：30

② 場所

- ウィンクあいち 1008 会議室

③ 出席者

（委員）



氏名	所属	役職
伊藤 恭彦	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科	副学長
加藤 隆弘	北陸ESD推進コンソーシアム(金沢大学)	ESDコーディネーター(准教授)
杉浦 真理子	株式会社アクト	代表取締役
彦坂 永利子	愛知県教育委員会 生涯学習課	課長補佐
萩ノ脇 裕司	中部地方環境事務所環境対策課	課長

※ 古澤委員、戸成委員は、「SDGs あいちシンポジウム2020」登壇のため、水谷委員は都合により御欠席

（事務局） 福井理事長、清本事務局長、原、富田
 （中部地方環境事務所） 溝手係長、西田主査

④ 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 地域循環共生圏について 環境省中部地方環境事務所
3. 中部地方ESD活動支援センターの2019年度業務の報告
 - (1) 主催イベントの開催について
 - (2) SDGsチェックリストの作成・公開と作成WGによる検証について
 - (3) その他業務について
4. 2020年度業務の事務局展開案の説明と意見交換
 - (1) 事務局説明
 - (2) 意見交換
5. その他
6. 閉会

⑤ 会議資料

資料1：2019年度業務報告資料
 資料2：今年度改善・作成したチェックリスト及びワークショップ用ツール
 資料3：地域ESD拠点（3団体）へのヒアリング結果
 資料4：次年度イベントの検討資料

参考資料 1 : ESD 活動支援センター全国連絡会関連資料

参考資料 2 : センターの活動方針

参考資料 3 : 地域循環共生圏について

ウ 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議開催結果のウェブサイトへの掲載

(ア) 第 1 回会議の議事概要

- 作成した第 1 回会議の議事概要を、各委員に確認した上で中部地方 ESD 活動支援センターのウェブサイトに公開した。

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

2019.08.05 **企画運営会議**

2019年度第1回・中部地方ESDセンター活動支援センター企画運営会議を開催

日 時：2019年6月25日（火）13：30～16：30

会 場：中部地方環境事務所・第1会議室

参加者：委員7名、中部地方環境事務所1名、事務局（中部地方ESD活動支援センター）4名

計12名



2019年度第1回目の企画運営会議を開催しました。

センターの活動方針と今年度業務内容とその事務局案などを報告し、今年度、どういった業務展開に取り組むべきかについて、委員の皆さんにご議論いただきました。

SDGsチェックリストの作成、ESDダイアログやESDフォーラムの開催など、多様な視点からの示唆をいただいたことで、本年度のセンター業務としての方向性を整理することができました。

【議事録】 第1回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要

(イ) 第2回会議の議事概要

- 作成した第2回会議の議事概要を、各委員に確認した上で中部地方ESD活動支援センターのウェブサイトに掲載した。

【中部地方ESD活動支援センターウェブサイト】

2020.03.12 企画運営会議

2019年度第2回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を開催

日時：2020年2月27日（木）13：30～16：30

会場：ウインクあいち 1008会議室

参加者：委員5名、中部地方環境事務所2名、事務局（中部地方ESD活動支援センター）4名

計11名



2019年度第2回目の企画運営会議を開催しました。

今年度実施したセンター業務の報告とともに、次年度展開に向けたご意見を、委員の皆さんからいただきました。

完成したSDGsチェックリストなどのツールを活用して、センターがESDの「E」の拠点としてどのように展開していくべきか、どのようなESD支援や交流の場づくりができるか、たくさんのアイデアや示唆をいただきました。

【議事録】第2回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要

3 基本業務

(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

ア ホームページの更新及び維持管理

(ア) 更新・維持管理状況

- EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの各ウェブサイトについて、下表の通り、記事の投稿・掲載・更新を行った。

※ 両ウェブサイトとも「3月」の数値は3月13日時点で集計を行ったものである。

【EPO 中部 (<http://www.epo-chubu.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ				
		EPO アクション	みんなのアクション	スタッフあれこれ	EPO 中部とは(運営会議等)	その他
4月	6	1	4	1	0	0
5月	10	3	6	1	0	0
6月	7	3	3	1	0	0
7月	18	11	5	1	1	0
8月	13	4	8	1	0	0
9月	18	8	8	1	1	0
10月	11	4	5	1	0	1
11月	11	3	7	1	0	0
12月	11	6	4	1	0	0
1月	8	2	5	1	0	0
2月	9	2	6	1	0	0
3月	4	3	0	0	1	0
計	126	50	61	11	3	1

【中部地方 ESD 活動支援センター (<https://chubu.esdcenter.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						その他
		センターからのお知らせ	企画運営会議	取材レポート	事業報告	イベント情報	中部の地域ESD拠点	
4月	4	2	0	1	0	1	0	0
5月	5	2	0	0	0	2	1	0
6月	9	1	0	2	3	3	0	0
7月	3	1	0	0	0	2	0	0
8月	11	3	1	1	2	2	2	0
9月	13	3	0	2	2	2	2	2
10月	3	0	0	1	0	2	0	0
11月	8	2	0	1	2	1	2	0
12月	8	3	0	2	1	0	2	0
1月	5	1	0	0	0	1	3	0
2月	5	1	0	1	0	1	2	0
3月	7	2	1	1	0	1	1	1
計	81	21	2	12	10	18	15	3

(イ) ウェブサイトのアクセス数

- EPO 中部、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトのアクセス数は下記の通りである。
- 5 月末に EPO・ESD センター兼用の Facebook ページを開設した。
- EPO ウェブサイトはアクセス数（ページビュー数）が大幅に増加した。

【下表の各項目について】

- 訪問者数：サイトに 1 回以上アクセスを行ったユーザー／閲覧した人の数（1 人が 2 回アクセスした場合は 1 人として集計）
- 訪問件数：訪問者がサイトにアクセスをした回数（1 人が 2 回アクセスした場合は 2 件として集計）
- ページビュー数：閲覧されたサイト内のページの総数
- ページビュー数の平均：ここでは訪問者 1 人あたりが閲覧したページビュー数を算定

【EPO 中部ウェブサイト】

	訪問者数 (ユニーク数) (単位：人)	訪問件数 (単位：件)	ページビュー数（ページ）		2018 年度 ページビュー 数 ※1	2017 年度 ページビュー 数 ※1
				平均 (ページ/人)		
4 月	3,994	7,852	59,319	14.85	19,311	32,869
5 月	2,539	4,464	30,280	11.93	18,382	37,951
6 月	2,744	4,769	29,150	10.62	20,060	27,827
7 月	3,321	5,539	34,314	10.33	18,763	19,752
8 月	3,486	5,534	38,479	11.04	17,688	25,807
9 月	2,721	6,713	72,087	26.49	14,795	34,714
10 月	3,706	8,727	75,127	20.27	16,176	24,051
11 月	4,187	9,702	102,551	24.49	16,289	18,034
12 月	4,873	11,592	182,209	37.39	31,808	23,287
1 月	4,790	10,976	107,374	22.42	39,694	31,568
2 月	3,653	10,686	61,384	16.80	21,378	35,860
3 月※2	2,054	3,339	18,562	9.04	44,972	23,308
計	42,068	89,893	810,836	17.97	279,316	335,028

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

	訪問者数 (ユニーク数) (単位：人)	訪問件数 (単位：件)	ページビュー数（ページ）		2018 年度 ページビュー 数 ※1	2017 年度 ページビュー 数 ※1
				平均 (ページ/人)		
4 月	156	249	618	3.96	595	未開設
5 月	249	358	828	3.41	857	未開設
6 月	236	358	955	4.05	1,301	未開設
7 月	249	348	832	3.34	795	684
8 月	219	347	1,111	5.07	1,144	298
9 月	204	346	1,232	6.04	818	295
10 月	361	522	1,192	3.30	904	366
11 月	293	404	1,064	3.63	1,085	325
12 月	222	343	1,139	5.13	879	287
1 月	250	348	841	3.36	841	362
2 月	360	453	1,181	3.28	641	1,343
3 月※2	91	154	528	5.80	752	897
計	2,890	4,230	11,521	4.20	10,612	4,857

※1：2018・2017 年度ページビュー数：各年度業務報告書より（データはページビュー数のみ）

※2：両ウェブサイトとも 2019 年度の「3 月」の数値は 3 月 13 日時点で集計（2020 年 3 月 1 日～12 日までのデータを集計）したものである。

(ウ) ホームページ更新案の検討

- EPO 中部ウェブサイトのリニューアルの検討に向けて、EPO 中部運営会議の第 1 回会議に要検討事項を整理した資料を提示し、第 2 回会議でリニューアル案を提示した。
- また、2019 年 5 月末に、EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター兼用の Facebook ページを開設し、主催イベントの情報提供、関係主体のイベント情報のシェア等による広報展開を開始した。

【第 1 回 EPO 中部運営会議の提示資料】

情報発信方法の検討		
今後集積される事例コンテンツ	ウェブ上での展開が想定される事項	今年度検討すべき事項等 <small>⇒詳細:後頁スライドに記載</small>
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域循環共生圏づくり研究会」及び協働コーディネーターの活用・対応事例 ・「活動見える化プログラム」実施事例 ・EPO主催セミナー等催事 ・そのほかEPOの協働支援、伴走支援の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働コーディネーターのPR、照会、依頼受付(ツール①のウェブ展開) ・「活動見える化プログラム」実施依頼の受付 ・ツール②データ集の公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ツール等のウェブ公開 ⇒公開・更新方法(システム)のあり方・設定 ・「EPO中部のこれまでに集積したネットワーク及びノウハウの整理」データの活用の方法 ・EPO中部ウェブサイトの次年度リニューアル公開のあり方

HP更新(リニューアル)の検討

受信者			
若者	NPO	企業	行政(自治体)
印刷物: ×	印刷物: △	印刷物: △	印刷物: ○
HP: ×	HP: ○	HP: ○	HP: ○
SNS: ◎	SNS: ○×	SNS: △	SNS: ×
催事: ?	催事: ○	催事: ○	催事: ○

情報源としての可否度

- EPOの発信を若者に受信してもらう媒体としては、SNSが有効と考えられる。
- NPO、企業、行政といった受信者にはHPによる情報発信が有効と考えられるが、EPOへの照会内容や情報ニーズがセグメントごとに異なることに留意した情報提供が必要。

- SNS活用として、掲載情報量の調整や機能設定がしやすい「facebookページ」を5月末に立ち上げ。
- HPでは各セグメントを具体的に想定した上での情報提供コーナー(「NPOの方はこちら」バナーがある等)など、EPOの役割(協働促進等)のためのあり方検討が必要。

ウェブサイトのリニューアルについて http://www.epo-chubu.jp/		
サイト全体の再構成	新しい活用ツールの公開	そのほかウェブの機能活用
<p>◆「EPO中部とは」を要工夫 (閲覧者視点からの「about us」であること) ▼▼▼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サイト全体の構成を「EPO中部とは」に連動させ、EPO中部がどのように役立つか・どんな支援を行っているかを明示する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①協働コーディネーターの紹介リスト(パンフレット) ②活動見える化プログラム ③活動支援に資するデータ集(出展可能環境イベント・リスト) ④EPO中部関連業務の過去報告書アーカイブ(イベント索引あり) ⑤SDGsチェックリスト(ESD業務で作成) <small>参考) https://chubu.esdcenter.jp/2019/06/10/sdgschecklistforessd/</small> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Facebook ページとの連動 ・ カレンダー機能によるイベント記事の掲載方法を工夫 ・ 新しい活用ツール②⑤の活用実績の収集など <p>※ Googleなど検索サイトへの登録等によるアクセシビリティ向上策も実施予定。</p>

イ メールマガジンの作成及び発行

- 毎月第2火曜日に、メールマガジンを次の通り発行し、12月には臨時号の配信も行った。
- 「冒頭部」の記事数は、中部地方環境事務所職員によるコラム記事を含めた、環境省及び中部地方環境事務所関連のトピック記事（目次前に掲載した記事）の数となっている。
- 発行メールマガジンのバックナンバーは、EPO 中部ウェブサイト上に専用ページを設置した。

月	号	発行日	発行部数	記事数・計	掲載記事数		
					冒頭部 (事務所コラム含む)	イベント情報	募集情報
4月	118号	4/9	771部	27	3	14	10
5月	119号	5/14	770部	25	1	13	11
6月	120号	6/11	770部	31	2	19	10
7月	121号	7/9	768部	34	4	23	7
8月	122号	8/13	768部	29	2	18	9
9月	123号	9/10	771部	36	2	18	16
10月	124号	10/8	773部	40	6	24	10
11月	125号	11/12	774部	30	3	19	8
12月	126号	12/10	771部	29	4	19	6
	臨時	12/16	771部	1	-	-	1
1月	127号	1/14	772部	35	3	21	11
2月	128号	2/11	773部	30	3	18	9
3月	129号	3/10	774部	14	2	※	12
計				282	27	167	88

※ 3月発行・129号は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くのイベントが中止となっており、「イベント情報」の掲載を見合わせた。

ウ 情報の収集・蓄積等

- 環境保全、協働の推進、ESDの推進等に資する情報を収集し、整理・蓄積を行った。（※送付されてきた広報依頼・配架依頼の資料等も含む。）
- 収集した情報（資料）については、下表の通りである。（※いずれの表も「3月」の数値は3月13日時点で集計を行ったものである。）

【収集した資料の内容別分類】

	収集件数・計	啓発・パンフレットなど					報告書・書籍・白書など		その他	ネット検索した資料類
		森林・生物	環境教育・ESD	環境全般	ボランティア・NPO	その他パ ンフ	国・県・市 町村	その他報 告書等		
4月	48	0	10	7	11	7	1	6	6	137
5月	44	1	11	12	2	6	1	6	5	115
6月	33	3	8	5	0	8	2	0	7	48
7月	32	5	4	6	9	5	0	0	3	147
8月	26	0	3	15	1	4	0	2	1	116
9月	32	2	3	14	5	3	0	2	3	188
10月	28	0	8	10	3	5	0	2	0	193
11月	39	2	10	9	10	8	0	0	0	198
12月	32	3	2	14	3	5	2	0	3	192
1月	18	0	1	8	3	3	1	0	2	91
2月	22	1	5	6	3	2	2	2	1	83
3月	17	1	2	4	2	2	1	2	3	47
計	371	18	67	110	52	58	10	22	34	1,555

【収集した資料の発行元の分類】

	収集件数・計	行政	NPO	企業	その他
4月	48	14	24	3	7
5月	44	13	17	1	13
6月	33	11	12	6	4
7月	32	12	13	2	5
8月	26	4	14	4	4
9月	32	11	16	4	1
10月	28	10	11	2	4
11月	39	8	26	1	4
12月	32	12	15	0	5
1月	18	4	8	1	5
2月	22	12	6	0	4
3月	17	11	3	0	3
計	371	122	165	24	59

【入手後の対応】

	収集件数	配架	メルマガ掲載	ファイリング	在庫	その他
4月	48	40	1	3	2	2
5月	44	38	0	6	0	0
6月	33	31	0	2	0	0
7月	32	24	0	8	0	0
8月	26	23	0	3	0	0
9月	32	23	0	7	0	2
10月	28	21	1	5	1	0
11月	39	35	6	4	0	0

	収集件数	配架	メルマガ掲載	ファイリング	在庫	その他
12月	32	27	2	5	0	0
1月	18	15	0	3	0	0
2月	22	17	0	4	0	1
3月	17	14	0	3	0	0
計	371	308	10	53	3	5

エ リーフレットの作成及び配布

- 2019年度からEPO施設の開館時間が変更になったことをうけて、前年度業務で作成したリーフレットの残部に訂正シールを貼り付け、対応した。
- その前年度・在庫500部を9月までにほぼ配布し終えたため、開館時間を修正した原稿で200部増刷した。その後、年度内に全在庫をほぼ配布し終えた(今年度の間に計・約700部を配布)。
- 更に3月、2020年度の開館日・時間等に変更したリーフレットを300部増刷した。

協働

**持続可能な社会を構築するために
“協働”が重要になっています。**

「環境パートナーシップオフィス」は、協働取組を構築・促進する中核的な担い手として、環境省が環境教育等促進法に基づき全国に設置しているものです。
その一つである「中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)」(2005年設置)は、中部エリアの協働促進に取り組んでいます。

EPO中部の主な役割

- 1 持続可能な社会の実現に向けた地域の協働取組モデルの創出・支援
- 2 持続可能な社会の構築に向けたESD・SDGsの推進
- 3 地域における中間支援機能の強化
- 4 環境教育等促進法の普及・促進
- 5 情報の提供・相談対応等

**第5期(2018年度～2020年度)では
“動機づけ”と“見える化”を視点として**

第5期のEPO中部は、地域環境活動による効果の可視化を目指し、協働及びESD・SDGsの活動支援ツール・システムづくりに取り組んでいます。

- 1 [活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集]の作成・活用
- 2 [活動評価システム(活動効果やSDGs要素を可視化するシステム)]の構築・検証
- 3 [EPO中部・協働コーディネーター]の活用展開
- 4 [ESD/SDGsポイント]チェックリスト・ツールの作成・活用

全国のEPOネットワーク

EPO中部は7県の地域環境活動を支援しています。

EPO中部
富山県 石川県 福井県 長野県
岐阜県 岐阜県 三重県

EPO北海道
EPO東北
EPOちゅうごく
EPO九州
西国EPO
きんぎ環境館

地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)
関東EPO
ESD活動支援センター(全国センター)

アクセス

名古屋市営地下鉄・桜通線「丸の内」駅の5番出口から徒歩3分

住所: 〒460-0003 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4F

開館日: 月曜日～木曜日 9:30～18:00
閉館日: 土・日曜、祝日、お盆・年末年始の休業あり
※金曜日は情報収集・整理日です。(スタッフ不在により閉館の場合があります。)

**中部環境パートナーシップオフィス
(EPO中部)**

TEL: 052-218-8605 FAX: 052-218-8606
Email: office@epo-chubu.jp
Web: http://www.epo-chubu.jp/

中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

TEL: 052-218-9073 FAX: 052-218-8606
Email: office@chubuesdcenter.jp
Web: http://chubu.esdcenter.jp/

2018.9発行

EPO
ESD

環境省中部環境パートナーシップオフィス
(EPO中部)

中部地方ESD活動支援センター

環境省 中部地方環境事務所

修正部分
(既存の残部は
シール貼り付け
で対応)

オ インターフェースなどを活用した会議の検討

(ア) インターフェース会議の実施に関する調査

- 遠隔会議実施の検討資料として、次のインターフェース会議設営方法等に関わる資料を作成し、中部地方環境事務所へ提示した。
- 協議の結果、中部地方環境事務所とEPOとを結んだ遠隔会議を試験的に実施することになった。

【インターフェース会議の概要】

	ウェブ会議		テレビ会議
専用機器	不要		必要
費用	安価／無料あり ・一般的に普及しているインターネット回線に接続するPC等の端末で可能		高価 ・専用機器が非常に高額 ・保守費用も発生 ・テレビ会議専用会議室の利用も通常より高額
条件等	・ネット回線・端末があればどこでも可能(相手側も同様)		・専用機器の設置・設定された会議室、或いはテレビ会議専用会議室でのみ可能(相手側も同様)
機能性	無料アプリ等	有料ツール	必要かつ十分 安定的に実施可能 ※ウェブ会議のようなファイルデータの共有等はできない。
	基本的に1対1の対話を前提。複数拠点の接続で音声・映像の断絶・凍結等発生するケースが多々あり。	法人向けの専門サービスにより多拠点を接続しても安定した品質の維持を前提。	
サポート	なし	あり	あり
予算感	—	1万円程度～	20万円程度～ テレビ会議システム導入会議室を使用した場合：システム使用料一式12万円＋オペレーター(4h)3.5万円＋ほか設置費、会議室使用料 ※TKP 貸会議室より
メリット	低コスト、気軽な使用、アプリケーション共有、モバイル対応		高い安定性、高品位動画・音声、堅牢性、ウィルスフリー
デメリット	マシン性能に依存、大人数に対応が難しい、安定性に欠ける		汎用性に欠ける、高額、アプリケーション共有が難しい
その他	四国 EPO にヒアリングした際、複数名が同時多発的に話す側には、集音マイクの設置をアドバイスされた。広い会議室では、個々人用イヤホンマイク、または集音型マイクスピーカーの配置方法にも留意する必要がある。		

出典：

<https://www.liveon.ne.jp/cafe/point/Difference-between-video-conference-and-web-conference.html>

<https://www.liveon.ne.jp/cafe/point/Free-web-conferencing-systems-are-at-risk.html>

<https://boxil.jp/mag/a3773/>

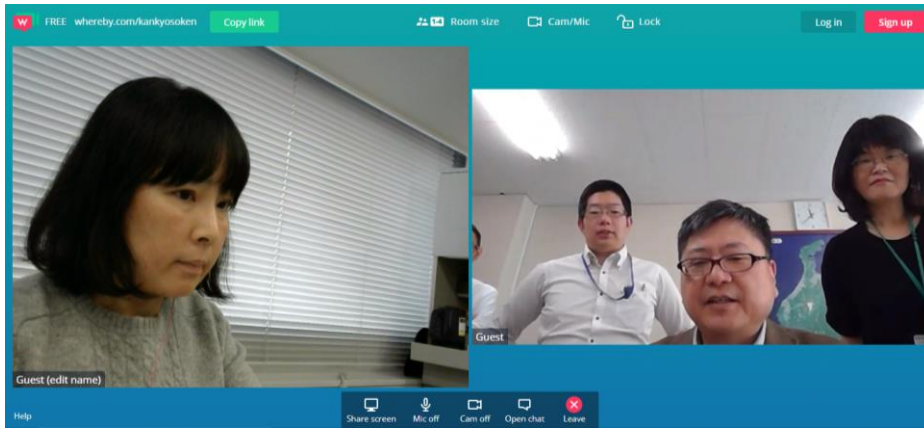
【ウェブ会議での必要機材について】

	会議室(大人数)側	個人側
PC	ネット接続1台	ネット接続1台
ウェブカメラ	広角レンズのカメラ FullHD対応、高速なUSB接続規格に対応(PC側も対応必要)	一般的なウェブカメラ
ヘッドセット	不要	※周囲の環境騒音が気になる場合のみ必要
マイク スピーカー	マイクとスピーカーが一体化した製品 ※会議室の広さ、出席者数で最適な機材が決まってくる。 ※ノイズキャンセラー機能、エコーキャンセラー機能を搭載したものが良い。 ※ダブルトーク(複数拠点でお互いに発話した状態)時の音響処理技術が組み込まれた製品でないと音声の途切れ、ボリュームダウン等が発生する。	ウェブカメラの機能でOK

出典：<https://www.meetingplaza.com/feature/need.html>

(イ) 遠隔会議の試行

- 11月20日に、中部地方環境事務所とEPOとを結んだ遠隔会議を試験的に実施した。
- 使用機材等：インターネット回線を使用したウェブ会議用ツール、カメラ
- 使用アプリ：Whereby(ウェアバイ)；旧 appear.in(アピアイン) <https://whereby.com/>
- 中部地方環境事務所内からはウェブカメラ付きノートPC、EPO中部内からはデスクトップPC(外付けウェブカメラをUSB接続)で接続。



Whereby 接続画像（左：EPO 中部内、右：中部地方環境事務所内）



中部地方環境事務所内での接続中の様子

(ウ) 実施した結果及び課題について

- 接続方法やツール、機器の取り扱いが簡便で、問題なく会話等することができた。
- 課題として、相手側の話し声が聞こえてくるまでに一定のタイムラグが必要とされること（ネット回線の環境・条件等によってタイムラグが長短するものと考えられる）、複数名が一斉に話した場合にはマイクが声を拾い上げできない事もあり、複数名がいる会議室とつなぐ場合には高性能な集音マイクが必要になることがあげられる。
- また、個々人の話し方によっては相手側が聞き取りにくくなるケースもあり、ウェブ会議の際には出席者（話し手）側に話し方などへの留意を求める必要がある。

(2) 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務

ア 照会・相談対応

- 相談者との面談や資料・情報収集、マッチング作業、照会先との連絡・調整などを要した照会・相談は、下記の通りである。
- 照会・相談対応については、中部地方環境事務所のフォーマットに則り、記入票を作成し、定期的に提出を行った。

※ ここではイベントの広報依頼等といった一過性の相談事項は除いた照会・相談対応を行ったものを整理している。

【相談方法・相談主体別の相談件数】

	相談件数・計	相談方法				相談主体の分類					
		電話	メール	来所	その他	初等・中等教育関係機関・ネットワーク・社会教育施設等	高等教育機関・学術研究機関・ネットワーク	地方自治体・行政・首長部局	公益法人・NGO_NPO等	企業等	その他
継続	4	2		2		1		1		2	
4月	6	4	1	1				2	4		
5月	3	2	1			1	1		1		
6月	2			2		1		1			
7月	4	1		3		2			1	1	
8月	1				1	1					
9月	5	2	1	1	1	2			1	1	1
10月	2	1		1				1		1	
11月	3		1	1	1				1	1	1
12月	6	1	2		3			1	3	1	1
1月	5	2	2	1				2		2	1
2月	1	1				1					
3月	2	1			1	2					
計	44	17	8	12	7	11	1	8	11	9	4

【相談に対しEPOが行った支援内容の件数】

	相談件数・計	EPOによる支援内容分類						
		政府のESD関連施策問い合わせ	教材・ツールの紹介	講師等人材紹介	研修・事業の企画運営	後援名義使用	交流機会	その他
継続	4			2	1			1
4月	6		1	5				
5月	3				3			
6月	2		1			1		
7月	4				1		2	1
8月	1			1				
9月	5		1		2	1		1
10月	2			2				
11月	3			1	1			1
12月	6			3	2			1
1月	5		2	1	1			1
2月	1				1			
3月	2			1	1			
計	44	0	5	16	13	2	2	6

※いずれの表も「3月」の数値は3月13日時点で集計を行ったものである。

【その他の相談・照会、施設利用等の件数】（3月13日までの年間合計数）

来館件数・計	相談・照会・施設利用等の件数			メール・電話による相談・問合せ
	相談・問合せのための来館	会議・打合せによるEPO施設利用の来館	その他の来館(情報収集等)	
147件	15件	44件	88件	236件

※相談・照会、施設利用の内容や月別件数については、次項「(3)施設の維持・管理」を参照。

【具体的な相談内容とEPOによる対応内容】

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
※前年度に相談があった案件への継続対応（4件）	2018 12/21	初等・中等教育関係機関・ネットワーク・社会教育施設等	・5月に津市内の学校関係者が集まる総会があり、会議後にユネスコスクールについて講演して下さる講師を派遣してもらうことは可能か。ユネスコスクール登録が1校しかないため、ユネスコスクールが増えていくことを目的とした講演内容を希望。	・12/21電話で問合せ。可能であると回答。また、外部の講師を招聘した場合の謝金の相場を聞かれ、環境省の規定額を例としてお伝えした。 ・3/26電話でやり取り。ESDやSDGsの基本的内容から原が講師として講演することで了解。以後詳細はメールにて調整。 ・4/15日時の調整。6/6の16:00よりを予定。 ・4/16再調整。5/20の16:00に変更	5/20 津市中央公民館にて、協会総会後に記念講演として実施。参加者30名。
	2019 1/24	企業等	・環境保全活動に取り組んでいる市民活動団体等を紹介してほしい。 ・岐阜県委託業務で環境学習体験ツアーを企画する際に、環境学習の講師を務めるNPOもしくは有識者等を紹介してほしい。	・1/24電話で依頼があり、詳細をうかがうため、同日に打合せを設定した。 ・NPO・有識者の紹介は可能であり、具体的にテーマ等が決定した際に、どのような団体・人を知りたいか照会連絡がほしいと伝えた。岐阜県の二人の協働コーディネーターや、ぎふNPOセンターなどがあることを紹介した。 ・1/30に再度、相談したいとの連絡あり、2/6再度連絡があり、来館。具体的に日程、テーマ、講師及び関連資料（参加者への配布資料とバスの中で鑑賞する動画資料）等について相談された。 ・2/6環境省による「プラスチック問題への取組」の話についての可否を、中部地方環境事務所へ確認。2/7揖斐川流域での里山の循環の話について、協働コーディネーター・河合氏に連絡。 ・2/7-8両ツアー講師候補ともお引き受け可能であるとのことを日本旅行へ連絡。河合氏とは直接遣り取りを行っていただくことになった。 ・2/13河合氏から、日本旅行さんと直接連絡を取り、調整中との報告をいただいた。 ・4/11メールにて業務着手の連絡があり、環境省担当者の連絡先をお伝えした。 ・4/22プラスチック問題についてのガイド役・中部地方環境事務所担当者と日本旅行担当者がEPOで打合せを行い、詳細について確認した。 ・5/28電話にて完成したツアーチラシの送付と広報協力依頼があった。	3/6に日本旅行から「平成31年度清流の国ぎふ上下流交流ツアー業務委託事業」プロポーザルで最優秀提案者選定の報告をいただいた。
	2019 3/12	企業等	・水をテーマにした社会貢献活動をしたい。所在地域周辺でパートナーシップを組めるNPO団体をさがしている。	・3/12電話で照会あり。GEOCに照会したところ、EPO中部を紹介され、電話をされた。明日以降、こちらからご連絡差し上げると回答。 ・3/13電話で概要を伺い、その後、事業者担当者から直接連絡があり、来館日の日時設定を行った。 ・3/18来所して具体的にどのような活動、どのようなNPO団体等と連携するかがあった。はじめから活動等に本格的に参加する形でなく、ネットワーク団体主催イベント等に参加して、連携できる団体とつながりを持つ、または協働コーディネーターを活用して地域貢献活動をコーディネートしていただく方法などを紹介した。一度、具体的にどのような方向性で展開するか社内で確認・検討していただくことになった。 ・3/25メールにて協働コーディネーターとの面談を希望する連絡があり、愛知・岐阜4名のコーディネーターに相談・面談の可否について確認連絡を行った。その後4名とも快諾いただき、日程調整を行った。 ・3/29個別に面談日時を設定。	・4/10 御礼のメールにて、社内で面談結果について検討すると共に、以後は協働コーディネーターと直接連絡をとり、進めていきたいとのコメントをいただいた。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
				<ul style="list-style-type: none"> ・4/9協働コーディネーター4名との個別面談をEPOにて実施。(※EPOは同席せず当事者同士で面談していただいた。)以後は協働コーディネーターに直接連絡して取組を進めていくことで問題はないことをお伝えした。 	
	2019 3/26	地方自治体・ 行政_首長部 局	<ul style="list-style-type: none"> ・COP10の10周年記念イベントの請負業者選定委員をEPOから招聘したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3/26連絡あり。4月に入ってから説明に来館いただけるとのこと。4月初旬に再度連絡いただくことになった。 ・5/7に電話があり、担当者が決定した旨の連絡と共に、関連資料が整理されたため、説明打合せをしたいとのこと。 ・5/9来館して「あいち・なごや生物多様性EXPO(仮)」と今後のスケジュールについて説明いただく。6月上旬以降に選定委員会としての連絡等各種調整を進めていただくことになった。 ・6/3電話で正式な事業認定があったことの連絡があり、事業者選定基準等の説明のための日時設定を依頼された。 ・6/7選定基準等の説明打合せを設定した。 	
1	4/9	公益法人 _NGO_NPO等	<ul style="list-style-type: none"> ・主催会合にて、地域の役に立ちたいと考えている人材を対象にしたSDGsの説明を行う講師を依頼したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4/9電話にて依頼があり、4/15にEPOへ来所して詳細を説明していただけることになった。 ・4/15来所して、会合の企画内容等を説明。講師役を引き受けて、SDGsをテーマにした講演とディスカッションと共に、中部地方ESD活動支援センターのPRを行うことになった。5/13に企画設定ヒアリングを行った。 ・8/1に来所、当日打合せを実施。 	
2	4/10	公益法人 _NGO_NPO等	<ul style="list-style-type: none"> ・学生対象の研修会でSDGsの取組紹介ができる企業を紹介してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4/10前年度1/18開催ESDダイアログ登壇・ひだまりほーむ(株)鷺見製材が「SDGs宣言」をしていることを紹介。依頼連絡をしても良いかEPOから確認。 ・4/11(株)鷺見製材から快諾の返信があり、田辺氏に先方の連絡先をメールでお伝えした。 ・4/12田辺氏から追加でSDGsに取り組む企業のコーディネートの取り組みを紹介できる講師の紹介依頼があったため、協働コーディネーター・堺氏を紹介した。また、田辺氏から登壇催事についての詳細資料をメールで送付いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5/19EPO運営会議の場において、田辺氏から鷺見製材の方に登壇いただくことになった旨の報告をいただいた。
3	4/15	公益法人 _NGO_NPO等	<ul style="list-style-type: none"> ・コープあいちの交流会で3Rの話題提供していただく講師を紹介してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容イメージや詳細について直接の担当者をお話した方がよい、と回答。担当者から電話をいただくこととなった。 ・コープ愛知の大串氏より電話、6月12日の交流会で環境分科会の話題提供の依頼。原が出向くことで対応を予定。組合員の打合せ後近々に連絡をとることで了承。 ・内容について協議、プラスチックのリサイクルを中心に話してほしいとの依頼あり。環境省中部事務所資源循環課河邊様の協力をいただきスライドを準備し先方に送付、調整を依頼(5月7日)。 ・5/29先方が来所。話題提供の内容にSDGsを盛り込むこととする。また意見交換方法について協議。当日は朝から原が現地入りする。 	<ul style="list-style-type: none"> 午前中の食育に関する全体講演の後分科会に分かれ環境分科会に「プラスチック問題」に関する話題提供と意見交換会のファシリテーターを務めた。参加者は組合員25名を含む35名。
4	4/18	地方自治体・ 行政_首長部 局	<ul style="list-style-type: none"> ・日進市役所の職員向け(各課より庁内ESD委員会へ参加メンバー)にESDの講演を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日程調整の結果5月28日午前中に開催することに決定。原が講師として出向く。 ・中部ESD活動支援センターのESD/SDGsチェックリストの検証ワークショップとして位置づけることを快諾いただく。 ・チェックリストは事前に配布、下書きを記入いただくということで準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> EPO中部・協働コーディネーター参加の元、検証WSとして実施。参加者30名。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
5	4/19	地方自治体・行政_首長部局	日進市開設のESD関連施設に配架するためESD関係資料・パンフレット等がほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 4/19メールにて依頼があり、4/24にサンプルを市へ持参し、先方担当者へお渡しした。 4/25電話でサンプルの資料全てを30部ずついただきたいとのこと。 5/7発送の手配を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 5/8に御礼の電話があった。
6	4/12	公益法人_NGO_NPO等	6/15の推進員研修会での講師をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> SDGsをテーマとした研修をワークショップ型で行ってほしいとの依頼あり。 原が講師として出向くことで対応。 地球温暖化とSDGsをテーマに環境コミュニケーションに焦点を当て話題提供するとともにチェックリストも活用したワークショップを実施。検証WSと同じアンケートを実施回収し補足データを収集した。 	
7	5/17	高等教育機関_学術研究機関_ネットワーク	金沢のJC、大学生、高校生によるSDGsをテーマにしたWGキャンプをEPOと連携して開催したい。	<ul style="list-style-type: none"> 中部地方環境事務所を介して、詳細を5/17に電話連絡いただく。同日、イベントの連携・支援をお引き受けする形でどのように進めていくか、電話で確認、打合せを行った。 8/8-9にキャンプ実施が決定となり、二日目の行程にEPOも出席予定となった。 	
8	5/27	公益法人_NGO_NPO等	学生15名程度の人材育成プログラムの連携について、SDGs、地域循環共生圏の関係セミナーを紹介してほしい。来年のプロジェクトの連携先を探したい。	<ul style="list-style-type: none"> セミナー情報については、名古屋環境大学、中部地方環境事務所にあたりSDGs関係セミナーがあるかもしれないとアドバイス。 人材育成プログラムの規格コンセプトなども含めて6月3日に来所、相談することで対応。 6/3来館し、面談して対応。学生による参加が可能な環境活動、西濃地域でSDGsに取り組む企業、環境イベント等開催時における旅行業関係法との抵触範囲、旅行会社との連携の方法について相談され、当方で認知している範囲でお答えした。 対談している中でNPOを対象にしたSDGsセミナー開催案が浮上し、相談者の関係者等に参加ニーズをうかがっていたことになった。 6/5メールがあり、河合氏所属先NPO内では実施したいとの反応があったとの報告をいただいた。 6/27企画書を送付して実施のスケジュール調整を依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 7月末に地域ESD拠点に登録申請し、8月の正式に登録された
9	5/31	初等・中等教育関係機関_ネットワーク_社会教育施設等	「地球温暖化や環境保全」をテーマにした訪問ゼミの実施を相談したい。	<ul style="list-style-type: none"> 6/3先方へ愛知県地球温暖化防止活動推進センターによる対応が可能であることと、場所としてEPO利用が可能であることをメールで連絡。了解いただき、依頼者とセンター側担当で直接日程調整をしていただくことになった。 6/12センター担当者から、高校側生徒との日程調整を行い、7/23にEPOで訪問ゼミを実施することになったとの連絡をいただいた。 先方の都合により、8/16に日程変更になった。 8/16EPOで愛知県温暖化防止活動推進センター担当者によるゼミを実施した。 	
10	6/4	初等・中等教育関係機関_ネットワーク_社会教育施設等	SDGsについて生徒に説明・紹介するため情報を収集したい。	<ul style="list-style-type: none"> 6/3メールにて揖斐川事業関連の資料等をいただきたいとの連絡があった。 6/4来所して、揖斐川事業関連のパンフレット等のほか、SDGs関連の資料のほか、全国ユース環境活動発表大会を紹介し、ぜひ応募いただくよう薦めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 翌日6/5に御礼メールをいただき、先方へ全国ユース環境活動発表大会の概要がわかるURLを送付した。
11	6/17	地方自治体・行政_首長部局	SDGsをテーマにしたフォーラムの後援依頼をしたい。	<ul style="list-style-type: none"> 6/17に電話があり、「錦二丁目地区SDGsネットワークフォーラム」の開催にあたり、EPO中部の後援をいただきたいため、その説明に来館したいとの連絡があった。日程調整を行った結果、6/17当日に来館されることになった。 来館された際、SDGsがテーマであるため、EPO中部とESDセンター(全国・中部)の後援も行うことが適していること、全国に広報ができること、EPOとESDセンター併記での後援が可能であることをお伝 	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
				<p>えた。先方もそのように進めたいとの回答があった。また、企業によるSDGsの取組・相談等について、意見・情報交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/10全国ESDセンターへの後援申請。 ・9/17チラシの送付があり、企業へのチラシ送付など広報協力をメール、電話で依頼された。 ・9/25チラシ掲載連絡先の誤植について電話連絡があり、訂正を依頼された。 	
12	7/1	公益法人 _NGO_NPO等	横須賀高校(定時制)の総合学習に講師を派遣してほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化や大気などをテーマとした総合学習への講師派遣依頼に原が対応。9/18夜に実施予定。事前に現地で打合せを行う。 ・8/30、横須賀高校の金子先生が来所。授業内容について打合せ。3限、4限を使い、前半は座学、後半はX博士によるクイズとゲームで構成することとした。 ・9/18、予定通り授業実施。36名の定時制生徒が受講。 	
13	7/5	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	訪問ゼミの依頼。	<ul style="list-style-type: none"> ・7/5に電話があり、「海の豊かさ」「海のごみ問題」の話を聞きに、EPOを訪問したいとのこと。「プラスチック問題」の話題提供を行うことになり、7/913:30-14:30に来館することになった。 ・7/9訪問ゼミを実施。ウェブサイトの記事を掲載した。 	7/19付けでお礼の手紙を受け取った。
14	7/9	企業等	自治体の施策・計画等へのSDGsの導入の方法、事例について知りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・7/9にメールにて相談依頼があり、7/10に来館して詳細をヒアリングすることになった。 ・7/10来館に対応。先進的な自治体として、SDGs未来都市を中心に紹介し、SDGsの活用方法について提案等を行い、自治体側が研修等必要になった場合には、ESDセンター(EPO)を活用いただくよう伝えてほしいとPRを行った。また、関連資料を提供した。(相談者のお子さん向けに子ども向けの環境学習資料類も提供した。) 	・7/10終了後、御礼メールをいただいた。
15	7/18	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	学校の授業の一環で、フィールドワークとして訪問したい。海洋汚染(プラスチック問題)について話を聞きたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・7/18電話にて訪問の趣旨、聞きたい話のテーマについて連絡と依頼があった。同日中にプラスチック問題について話をすると、8/5(月)の訪問を受け付けた。 ・8/5訪問があり、1時間強ほど、プラスチック問題、海洋汚染について話をした。 ・講義の間、CSOラーニング生も同席。後日、ウェブに掲載する記事を作成してもらい、掲載した。 	
16	8/7	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	愛知県環境コーディネート事業を通じて、総合的な環境学習の3回のうち一回の授業をしてほしいとのこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・9/18に他の2回の講師2人とともに現地で打ち合わせ。最後の回として復習を兼ねてSDGsを最後に関連付けるWS型出前講座を学年全体で体育館で実施することとした。 ・11/15に体育館を下見し、詳細を打合せ。2時限を使い、前半をO?クイズ、後半を地球にやさしくするポスター作りとして構成。 ・11/21実施。およそ100名の児童(3クラス)が参加。 	各児童が感想文を書き、講師にお手紙として送付あり。SDGsが地球と関係する重要な目標であることの理解を促進。
17	9/2	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	2020年4月に中学校の遠足でESDセンターを訪問したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・9/2 2年生全学年100人のうち30人程度で訪問したい(他の生徒はJICA等他の施設を訪問)、2時間程度しっかり勉強したいとのこと。せまいのでぎっしりの座学になるが対応したいと返答。詳細はメールでやりとりしたいので、送ってもらえるよう当方のアドレスを伝達。 faxで以来文書を受け取り。4月22日(水)で日程をフィックス。 ・2/19電話連絡があり、スケジュール等を確認。年度末に下見をしたい(3月24日予定)。 ・2/27電話連絡あり。コロナウイルスの影響により秋に延期。年度明けに相談したいとのこと。 	
18	9/9	初等・中等教育関係機関	9月末に学園祭があり、環境問題について企画を立てている。今	<ul style="list-style-type: none"> ・9/1116:30生徒数名と来所することで調整。 ・当日小野先生と女子生徒3人が来所。環境問題に関する情報提供を行う。また学園祭に向けた出展 	10/10小野先生よりお礼のメールを受領。同時に企画に助

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
		ネットワーク_社会教育施設等	週、生徒数名と共にEPOを訪問し、資料収集と話をうかがいたい。	企画についてブレインストーミングを実施。	言した文化祭の結果報告をいただく。EPO中部に取材に来たことを含め全校に紹介した模様。
19	9/5	公益法人_NGO_NPO等	タイムカプセル開封記念イベントin東山動植物園への後援申請とイベントへの参加を依頼された。	<ul style="list-style-type: none"> ・9/5メールにて昨年同様に後援申請する旨の連絡と、当日の参加を依頼された。イベント開催日11/16が当センター主催ESDダイアログの開催日であるため、イベントにはインターンの学生が取材を兼ねて参加できるよう調整する旨を回答した。 ・しかしその後、学生に参加の可否を確認したが、所用により参加できないことが確定した。 ・9/10全国センターから後援申請受理の通達があった。 	
20	9/19	その他	ESD学びの場づくりガイドブックを入手したいとの依頼があった。	<ul style="list-style-type: none"> ・9/18に環境省から残部数の確認と共に、名古屋市在住の市民から入手希望の問合せがあったためEPO中部を案内するとの連絡があった。 ・9/19ご本人から電話があり、ガイドブックの本編5冊と概要版10冊を入手したいとのこと。概要版がまだEPOに到着していなかったため、週明けに再度確認・連絡をいただいてから、来館していただくよう案内した。 ・9/24概要版がEPO中部に到着。 ・9/25ご本人から電話があり、概要版の到着をお伝えしたところ、その当日のうちに来館されて、本編・概要版を提供した。 	
21	9/30	企業	「ジャパンSDGsアワード」への応募のために、社の重点として打ち出す方法・内容に悩んでおり、相談にのっていただきたい。	<p>電話で意見として以下を助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社が県産材を使って取り組んだことをベースに、様々な協働やネットワークが形成されていることが、多くの目標に貢献していることをわかるようにしたらどうか。 ・普通の企業がまじめに社会市民として取り組むことが重要であると表現するとよいのではないかと。 	
22	10/23	企業等	中部社で行う12のの販売店連合会長を含む50名に20分のCOOL CHOICEの講演をしてほしい。	講演者として原が対応する。目的は省エネ型買い換えキャンペーンに販売店が協力するよう各連合の会長に意識してもらうということを確認。このためSDGsとパリ協定から入り、販売業務が世界に貢献するというストーリーで話を組み立てる。日時は11月19日13:45～。堀田近くの会場にて実施。	
23	10/2	地方自治体_行政_首長部局	春に行ったSDGsの講演WSの内容で違う職員を対象にもう一度行ってほしい	講演者として原が対応する。SDGsチェックリストの改訂版とパッケージ改良版のテストを兼ねて11/25午前中に実施することとした。	11/25実施。アンケートを回収。CL検証の一助とする。
24	11/19	企業等	11/19の講演を、愛知連合に対して実施してほしい	講演者として原が対応する。11/19と同じ内容とする。	
25	11/26	公益法人_NGO_NPO等	ガスのCO2換算について計算式と根拠の確認をしたい	日本LPガス協会の資料を出典にするとよいことをメールにて助言。	
26	11/25	その他	福井県年縞博物館を拠点にしたインターン大学生受け入れのための企画について相談したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・11/15に来館されてご挨拶をした。 ・11/25にメールがあり、再度来館し、インターン受け入れ企画について相談したい旨の連絡があった。 ・12/4に来館し、インターン企画についての詳細や年縞博物館の名古屋圏でのイベント企画の方法などについて情報交換を行った。EPOは、運営会議の大学の先生などに同インターンの企画紹介などが可能であり、春までに企画が固まれば、次年度の第1回目の運営会議で先生方に企画を紹介できる 	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
				旨をお知らせし、またEPOのウェブサイト等で広報協力できることをお伝えした。	
27	12/1	公益法人 _NGO_NPO等	愛知県と共催で行う推進員と行政の交流フォーラム(名古屋、豊橋の2回)でSDGsとCOOL CHOICEの関連した企画の相談に乗ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委相談に対応SDGsとCOOL CHOICEの関連したディスカッションの内容について企画。 ・原が講師とファシリとして対応することで了解。 	
28	12/9	企業等	愛知県ユネスコスクール活動事例集(冊子)の関係団体紹介ページに、昨年度に引き続き今年度版にも中部地方ESD活動支援センターを掲載したいため、原稿確認を依頼したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・12/9メールで依頼があった。 ・同日中に、添付されていた原稿を確認し、SDGsチェックリスト、ワークシートの作成・配布を行っている一文を追加・修正して、先方へ返信した。 	
29	12/16	公益法人 _NGO_NPO等	SDGsチェックリストWSを豊田市で横展開したい	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な話があればいつでも相談してほしいとメールで連絡。 ・先方より「豊田市内には1万社、中小零細企業があり、豊田市のSDGsを進めていくにあたり、いい球だと感じた。横展開できる機会があれば、主体的に動きたい」との返信あり。 	
30	12/13	地方自治体・ 行政_首長部 局	あいちeco ティーチャー 交流会への講師派遣について、依頼したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・原が講師として対応。 ・12/19に打ち合わせ。3月8日午前中に45分の枠で環境コミュニケーションとESD に関する講義を行うこととする。 ・2/27新型コロナウイルスにより中止の連絡あり 	
31	12/24	その他	3/9開催の学習会にSDGsをテーマに講師を派遣してほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・原が講師として対応することで了解。 	
32	12/26	公益法人 _NGO_NPO等	4/18or19の気候変動ワークショップの話題提供をしてほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・原が話題提供者として対応することで了解。 ・テーマについて具体的に示してもらおう依頼 ・日程を4/18で調整いただくよう依頼 	
33	1/6	地方自治体・ 行政_首長部 局	学区連絡協議会の来年度に学区の50周年記念に、地域の住民を対象とした環境勉強会でSDGsのWS開催ができないか	<ul style="list-style-type: none"> 1/6メールで以下を返信 ・チェックリストをはじめとするツールパッケージの展開を考えているので協働できたらよい。 ・1/31のワークショップに参加することなので、その時に詳しい話を聞きたい。 	
34	1/10	その他	環境フェア(3月に大垣で開催)のブースで、一般市民向けのSDGs/ESDの資料を紹介したいと考えているが、20部程度いただくことは可能か	<ul style="list-style-type: none"> ・1/10に、先方から具体的に要望のあった環境省発行の資料(※1)にSDGs/ESDの関連資料等を加えて送付。 ・国連広報センター発行の資料URL(※2)を紹介し印刷したものを併せて送付。(※1) ・概要版「～SDGs達成に向けた～持続可能な地域の創り手を育む“学びの場”づくりガイドブック」 ・「持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド」(※2) ・「ゴー・ゴールズ!」 ・「持続可能な社会のために ナマケモノにもできるアクション・ガイド」 	<ul style="list-style-type: none"> ・1/14、資料受取と御礼の電話あり。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
35	1/21	地方自治体・行政_首長部局	(1)昨年5月に入手した資料(2点)の追加送付を要望。(2)窓口案内用にESD/SDGs関連の参考資料があれば入手したい(生徒/親子/一般/職員用)。	<ul style="list-style-type: none"> ●『ESDが大切にしていること ESD BOOK』、『SUSTAINABLE BOOK 未来を創るための本』について在庫僅かのため送付は難しいこと、附属シールは在庫があり送付が可能である旨回答。 ●以下の資料を送付〔()内の数字は数量〕 『ESDが大切にしていること ESD BOOK 』シール(20)、『こども環境白書2019』環境省(10)、“子どもeco検定”公式テキスト『地球教室 2019【基礎編】【応用・研究編】』朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」教材開発委員会(各10)、『持続可能な未来のための地域循環共生圏 令和元年版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』環境省(10)、『～SDGs達成に向けた～持続可能な地域の創り手を育む“学びの場”づくり ガイドブック』【概要版リーフレット】【ガイド】環境省(各10)、『すべての企業が持続的に発展するために 持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド』【リーフレット】【ガイド】【資料編】環境省(各10)、『やさしい 未来に…』EPO中部(10)、『地域版ESD環境教育プログラムガイドブック』、『ESD環境教育モデルプログラムガイドブック』環境省(各5)、『ユネスコスクールで目指すSDGs 持続可能な開発のための教育 Education for Sustainable Development』文部科学省/日本ユネスコ国内委員会(10)、『学びから行動へ! 持続可能な社会を支える「行動する人づくり」～愛知県環境学習等行動計画2030～』(リーフレット)愛知県環境活動推進課(10)、『協働授業づくりハンドブック』【～教員・保育者の皆さんへ～】【～事業者・NPO・高等教育機関・行政等の皆さんへ～】愛知県環境活動推進課(各10) ●国連広報センター発行の資料のURLを紹介し印刷したものを併せて送付;「ゴー・ゴールズ!」持続可能な社会のために ナマケモノにもできるアクション・ガイド」 	・1/24、資料受取と御礼の電話あり。
36	1/21	企業等	CSOラーニング制度の受け入れ団体となる名古屋近郊に所在するNPOの紹介。	<ul style="list-style-type: none"> ・「なごや環境大学」を紹介。 ・同ガイドブックに該当する団体が多数掲載されており、適当する団体の主催する講座内容から団体の活動内容等も推察できることとお答えした。 	
37	1/31	企業等	・3/11開催「環境ダイアログ」への出席メンバーとしてNPO等地域活動者1-2名を推薦・紹介してほしいとの連絡があった。	<ul style="list-style-type: none"> ・1/31にメールで依頼があり、該当者がありしだい連絡する旨を返信した。 ・候補となりそうな方との調整を行った上で、2/13に愛知県地球温暖化防止活動推進員1名を参加者として推薦した。以後は両者間で直接連絡等やり取りを行っていただくことになった。また、昨年度紹介した中部大学からも参加者が得られたことの報告をいただいた。 ・推薦した方へのご案内メールがCCでEPOにも送信いただいた。 ・3/2新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止の連絡あり。 	
38	2/19	初等・中等教育関係機関・ネットワーク_社会教育施設等	新年度入学1年生の対象のESD展開相談と講師の紹介要請。	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDカレンダー活用を提案。 ・1年生(環境)2年生(社会)3年生(経済)と段階的に発展させることについて総合学習で取組む企画に賛同。 ・1年生当初のSDGsキックオフ授業という位置づけ授業講師を外部から呼ぶについては愛知県環境コーディネイト事業の活用を提案。 ・豊田市環境政策課と接触があることについて拡大し、エコットやエコライフセンターを活用することを助言。 ・2/20メールで連絡あり。愛知県の環境学習コーディネイト事業に申し込むとのこと 	
39	3/2	初等・中等教育関係機関・	2020年10/8に中学校の校外学習でESDセンターを訪問したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・4/22に当初予定していた(コロナウイルス影響で中止)訪問の日程調整 ・10/8に受け入れることで回答 	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
		ネットワーク 社会教育施設 等			
40	3/8	初等・中等教育 関係機関・ ネットワーク 社会教育施設 等	新1年生に対する総合学習のESD 講師をお願いしたい。希望時期4/30	<ul style="list-style-type: none"> ・原が講師として対応する。 ・愛知県環境学習コーディネート事業のマッチング ・3/31EPO中部に相談者来訪打合せ 	

イ 対話の体制の構築

(ア) 会議等の招聘・委嘱

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが招聘された会議等は次の通りである。
- 会議出席のほか、講師としての登壇など、関係主体の依頼に対し適宜対応した。また、セミナー・フォーラム等開催の機会に、関係自治体を訪問し、意見交換等を行った。

【会議・セミナー等への招聘・委員委嘱等】

	県区分	主体	名称	開催日	職名	参画者
1	愛知	自治体 名古屋市	「なごや環境デー」実行委員会	4/17	委員	顧問 児玉剛則
2	三重	ユネスコ協会 津ユネスコ協会	総会後の講演(ESD/SDGs/ユネスコスクール)	5/20	講師	ESD責任者 原理史
3	愛知	自治体 日進市環境課	日進市職員ESD基礎研修	5/28	講師	ESD責任者 原理史
4	愛知	自治体 愛知県	ユネスコスクール支援会議	①6/5 ②12/20	委員	ESD責任者 原理史
5	愛知	生活協同組合 コープあいち	組合員交流会環境分科会話題提供	6/12	講師	ESD責任者 原理史
6	岐阜	一般財団 岐阜県公衆衛生検査センター	岐阜県地球温暖化防止活動推進員研修会	6/15	講師	ESD責任者 原理史
7	愛知	自治体 名古屋市	あいち・なごや生物多様性EXPO(仮称)運営業務委託事業者評価委員	7/26	委員	顧問 児玉剛則
8	愛知	株式会社 アイサク	安全大会における省エネ活動推進の意義についての話題提供	7/30	講師	ESD責任者 原理史
9	長野	大学 信州大学	信州ESDコンソーシアム 令和元年度通常総会	8/24	構成員	ESD責任者 原理史
10	愛知	一般社団 日本体験学習研究所	未来を創る人の「輪」プロジェクト講座第3回	8/31	講師	ESD責任者 原理史
11	愛知	高校 横須賀高校	地球温暖化問題に関する講義とWS	9/18	講師	ESD責任者 原理史
12	愛知	企業 パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社	中部パナソニック連合会	11/19	講師	ESD責任者 原理史
13	愛知	自治体 日進市環境課	日進市職員ESD研修	11/25	講師	ESD責任者 原理史
14	愛知	企業 パナソニックコンシューマーマーケティング株式会社	愛知パナソニックショップ連合会 新年会議	1/9	講師	ESD責任者 原理史
15	愛知	自治体、一般社団 愛知県、環境創造研究センター	地球温暖化防止活動推進員と行政の交流フォーラム	1/14、 1/23	講師、ファシリ	ESD責任者 原理史
16	愛知	自治体 愛知県環境活動推進課	あいちeco ティーチャー 交流会	3/8	講師	ESD責任者 原理史
17	愛知	任意団体 日進消費生活研究グループ	定例学習会	3/9	講師	ESD責任者 原理史

※ 16, 17：新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止となった。

【そのほか意見交換や業務説明等の実施】

県	日付	主体	担当部署等	実施内容
愛知	5/28	日進市	市民生活部	意見交換、情報交換
長野	5/23	長野県	林務部信州の木活用課、林務課	同時解決事業についての説明、今後の協力依頼
福井	6/13	福井県	安全環境部	意見交換、情報交換
長野	7/3	飯山市	市長、副市長、経済部農林課、民生部保健福祉課、総務部企画財政課	同時解決事業、地域循環共生圏についての説明、今後の協力依頼
愛知	7/9	なごや環境大学	なごや環境大学実行委員会事務局	「環境白書から実践へ」特別公開講座
愛知	7/18	中部ESD拠点協議会	中部大学国際ESD・SDGsセンター	サステナ政策塾第2回参加
愛知	7/7	コミュニティ政策学会	第18回 学会大会(犬山)事務局	シンポジウム参加

県	日付	主体	担当部署等	実施内容
中部	7/24	中部地方環境事務所	環境対策課	第16回地球温暖化に関する中部カンファレンス参加
石川	8/9	金沢青年会議所	(金沢大学・河内氏)	SDGsキャンプでEPOの紹介
長野	8/28	飯田市	企画課林補佐、環境課福澤係長、教育委員会、信州大学水谷先生	意見交換、ダイアログ企画
愛知	8/30	中部ESD拠点協議会	中部大学国際ESD・SDGsセンター	サステナ政策塾第3回参加
長野	11/16	飯田市	市長、総合政策部企画課	意見交換、情報交換
長野	11/29	根羽村森林組合	総務課	地域ESD拠点登録に関する情報提供

(イ) EPO 中部によるイベントの後援等

① 後援依頼

※ 中部地方 ESD 活動支援センターによる後援については、申請手続を ESD 活動支援センター（全国センター）が一括して行っているため、「5(4)ア.全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携」の項目で整理した。

申請主体（行事主催者）：錦二丁目まちづくり協議会

申請行事：錦二丁目地区 SDGs ネットワークフォーラム

行事開催日：10月23日

* 依頼者は名古屋市環境局環境企画課施策推進係で、中部地方 ESD 活動支援センター（ESD 活動支援センター）による後援も可能であることを紹介したところ、後日、センターへの申請が行われ、受理された。

申請主体（行事主催者）：愛知県地球温暖化防止活動推進センター

申請行事：SDGs・気候変動対策 交流フォーラム

行事開催日：名古屋会場 1月14日／豊橋会場：1月23日

② 協力依頼

申請主体（行事主催者）：NPO 法人泉京・垂井

申請行事：山川里海 情報交流会&グリーン連合シンポジウム

行事開催日：2月8日

(3) 施設の維持・管理

ア オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理

- 防火・防災管理については、法規定に則り、昨年度に常勤スタッフが「防火・防災管理者」講習を受講した上で消防計画書等を作成の上、管轄消防署への届出を行った。
- 7月18日に実施されたビル内一斉の防火・防災点検検査にも対応の上、消防署への書類提出対応等も行った。
- 定期的に（週2回程度）、防火・防災に関わる身のまわりのチェックを実施している。
- いずれの関係書類も「防火管理台帳」による保管を行っており、また、各種届出等関係書類は、中部地方環境事務所へも提示・確認を行っている。
- 11月29日に実施された入居ビル主催の全館防災訓練にも参加した。

【防火・防災点検結果報告書】

別記様式第1
防火対象物点検結果報告書
令和元年8月20日
名古屋市中消防署長 殿
届出者
住所 名古屋市中区三の丸2-5-2
氏名 株式会社環境省パートナーシップオフィス
電話番号 052-955-2130

下記のとおり防火対象物の点検を実施したので、消防法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。

記
所在地 名古屋市中区錦二丁目4番3号
名称 錦パークビル
用途 事務所 令別表第一(15項)
構造・規模 耐火造 地上 22階 地下 4階
床面積 3,335.78㎡ 延べ面積 27,227.54㎡

点検実施日 令和元年7月18日
点検票 別紙のとおり

消防法施行規則第4条の2の6
第2項の適用 有 第1号 第2号

住所 名古屋市中区秋葉二丁目90番地
氏名 渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社 052-589-3249)
講習機関名 免状交付年月日 免状交付番号 再講習受講年月日
(財)日本消防協会 平成30年12月4日 第441600203号 年 月 日

※受付欄 ※経過欄 ※備考

消中予第 号
令和元年8月26日
名古屋市消防署
中消防署長

備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
2 消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用の欄は、当該規定が適用される場合は「有」の□にレ点を記入し、適用されない場合は「無」の□にレ点を記入すること。なお、「有」の場合において、同項第1号の規定が適用される場合は「第1号」の□にレ点を記入し、同項第2号の規定が適用される場合は「第2号」の□にレ点を記入すること。
3 ※印の欄は、記入しないこと。

別記様式第1
防火管理点検結果報告書
令和元年8月20日
名古屋市中消防署長 殿
届出者
住所 名古屋市中区三の丸2-5-2
氏名 株式会社環境省パートナーシップオフィス
電話番号 052-955-2130

下記のとおり防火管理対象物の点検を実施したので、消防法第36条第1項において準用する同法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。

記
所在地 名古屋市中区錦二丁目4番3号
名称 錦パークビル
用途 事務所 令別表第一 15項
構造・規模 耐火造 地上 22階 地下 4階 PFI 2階
床面積 3,335.78㎡ 延べ面積 27,227.54㎡

点検実施日 令和元年7月18日
点検票 別紙のとおり

住所 名古屋市中区秋葉二丁目90番地
氏名 渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社 052-589-3249)
講習機関名 免状交付年月日 免状交付番号 再講習受講年月日
(財)日本消防協会 令和元年5月14日 第642101532号 年 月 日

※受付欄 ※経過欄 ※備考

消中予第 号
令和元年8月26日
名古屋市消防署
中消防署長

備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
2 消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用の欄は、当該規定が適用される場合は「有」の□にレ点を記入し、適用されない場合は「無」の□にレ点を記入すること。なお、「有」の場合において、同項第1号の規定が適用される場合は「第1号」の□にレ点を記入し、同項第2号の規定が適用される場合は「第2号」の□にレ点を記入すること。
3 ※印の欄は、記入しないこと。

イ 施設・設備の維持管理

- 当施設の2019年度の来館件数とメール・電話による問合せ件数の合計は次の通りであった。
- ※ いずれも「3月」の数値は3月13日時点で集計を行った。

【施設の運用状況・使用状況等（2019年度）】

	業務実施 日数・計 (日)	開館日 数・計 (日)	来館者数・計(人)		来館件数・計		メール・電話による 問合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
			日平均 (人/日)	日平均 (人/日)	日平均 (件/日)	日平均 (人/日)				
4月	20	20	22	1.1	10	0.5	32	1.6	60	3.0
5月	19	19	21	1.1	13	0.7	22	1.2	61	2.7
6月	22	19	25	1.3	17	0.9	33	1.7	68	2.8
7月	24	22	34	1.5	14	0.6	22	1.0	80	3.0
8月	18	18	37	2.1	17	0.9	12	0.7	68	2.6
9月	22	19	28	1.5	13	0.7	20	1.1	75	3.4
10月	21	21	23	1.1	14	0.7	13	0.6	79	3.3
11月	25	21	27	1.3	15	0.7	15	0.8	88	2.6
12月	24	20	19	1.0	17	0.9	16	0.8	72	2.9
1月	19	19	11	0.6	8	0.4	25	1.3	57	2.5
2月	20	18	16	0.9	5	0.3	21	1.2	50	2.4
3月	10	10	6	0.6	4	0.4	5	0.5	26	2.6
計	244	226	269	1.2	147	0.7	236	1.0	784	3.5

【参考：前年度・2018 年度実績】

	業務実施 日数・計 (日)	開館日 数・計 (日)	来館者数・計 (人)		来館件数・計		メール・電話による 問合せ件数 (件)		スタッフ体制・計	
			日平均 (人/日)	日平均 (人/日)	日平均 (件/日)	日平均 (人/日)				
4月	20	20	30	1.5	18	0.9	9	0.5	53	2.7
5月	22	20	33	1.7	20	1.0	14	0.7	52	2.6
6月	23	20	31	1.6	10	0.5	9	0.5	71	3.6
7月	22	20	18	0.9	10	0.5	6	0.3	61	3.1
8月	25	18	13	0.7	9	0.5	5	0.3	51	2.8
9月	19	18	24	1.3	10	0.6	5	0.3	57	3.2
10月	27	21	31	1.5	17	0.8	6	0.3	63	3.0
11月	31	20	9	0.5	7	0.4	7	0.4	58	2.9
12月	21	19	52	2.7	22	1.2	7	0.4	62	3.3
1月	21	19	17	0.9	9	0.5	15	0.8	64	3.4
2月	23	19	18	0.9	10	0.5	18	0.9	54	2.8
3月	25	14	15	1.1	8	0.6	13	0.9	43	3.1
計	279	228	291	1.3	150	0.7	114	0.5	689	3.0

【来館内容】

◎相談・問合せのための来館

4月	1件	・地域 ESD 拠点の団体が SDGs をテーマにしたセミナーでの講師を依頼するため来館
5月	1件	・コープあいち話題提供打合せ
6月	5件	・NPO がプロジェクトの連携先について相談のため来館 ・三重県の高校の先生が来訪されて情報収集と意見交換 ・中間支援組織が開催講座の説明と広報協力依頼のため来所 ・企業財団が事業説明（広報協力依頼）のため来館 ・自治体が SDGs をテーマにしたフォーラムの EPO 中部による後援依頼の相談・説明のため来館
7月	1件	・コンサルタント会社が自治体による施策への SDGs 導入方法についての相談
8月	1件	・ESD 拠点団体と SDGs の講座について打合せ
9月	2件	・高校の文化祭発表のための情報提供 ・ESD 学びの場づくりガイドブック（本編・概要版）の入手
10月	1件	・企業からの COOL CHOICE の講演依頼の相談
11月	1件	・企業から事業連携についての相談
12月	1件	・博物館でのインターン学生受け入れの企画、広報についての相談
1月	1件	・企業財団の学生インターン制度についてのヒアリングと名古屋近郊 NPO の紹介
2月	0件	
3月	0件	
計	15件	

◎会議・打合せによる EPO 施設の利用のための来館

4月	8件	・中部地方環境事務所との定例打合せ（2件） ・愛知・岐阜を拠点にする企業が水資源をテーマにした地域活動団体との連携方法についてと協働コーディネーター4名に相談する個別面談を実施（4件） ・岐阜県環境学習ツアーでのプラスチック問題ガイドの打合せ（中部地方環境事務所、旅行会社） ・同時解決・連絡会①
5月	6件	・COP10 記念イベント業者選定委員に関する説明打合せ ・中部地方環境事務所との定例打合せ ・地域 ESD 拠点 JIEL との登壇セミナーに関する打合せ ・環境創研顧問による打合せ利用 ・セミナー開催企画に関する打合せ利用 ・ナッジ WG の開催利用
6月	3件	・中部地方環境事務所との定例打合せ

		<ul style="list-style-type: none"> ・本省民活室、中部地方環境事務所との打合せ ・市民協働のあり方について（話し合い・情報提供）
7月	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の勉強会（プラスチックごみ問題など） ・中部地方環境事務所との定例打合せ ・SDGs ツール作成WG 第1回ミーティング ・高校生の勉強会（地球温暖化など）
8月	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の訪問ゼミ（テーマ：海洋汚染） ・環境学習事業について自治体・講師等の打合せ ・愛知県地球温暖化防止活動推進センターによる高校生の訪問ゼミ利用 ・地域循環共生圏づくり研究会の第1回会議の開催 ・愛知県コーディネート業務打合せ
9月	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方環境事務所との定例打合せ ・温暖化防止活動に関わる団体による会議利用 ・CSO ラーニング生による定例会 ・CSO 事務局財団担当者との打合せ
10月	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・中部地方環境事務所との定例打合せ ・SDGs チェックリスト作成WG ・団体による企画委員会
11月	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化センター事務局長の会議 ・愛知県センターCOOL CHOICE 普及啓発ナッジ活用研究のWG 打ち合わせ ・自治体との打合せ
12月	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・EPO ウェブサイトのリニューアル方法に関する打合せ ・社史編纂打合せ利用
1月	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・座長打合せ（EPO 運営会議） ・自治体の環境審議会打合せ
2月	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回地域循環共生圏づくり研究会
3月	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回情報交換会（地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業成果報告会）のウェブ会合（2件） ・地域循環共生圏ブロック会議（web）
計	44件	

◎その他の来館

4月	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境デーなごや」と関連した取組についてのヒアリング
5月	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・ESD ダイアログ登壇者の企業が、商工会議所関係会議で使用する SDGs ガイドブックを貰い受けに立ち寄り ・PC、ネットワーク、データバックアップについて確認打合せ ・CSO ラーニング制度応募者の学生との面接 ・SDGs 関連の資料収集 ・青年会議所が SDGs ガイドブック等関係資料・パンフレットの受け取り ・資料配架依頼
6月	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集（2件） ・CSO ラーニング制度によるインターン学生の研修（2件） ・新スタッフの面接 ・PCに関して相談するため契約業者の専門家が来館（2件） ・新しいスタッフの面接、業務引き継ぎ ・情報誌配架依頼
7月	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・CSO ラーニング制度によるインターン学生の研修（4件） ・情報収集（4件） ・オフィスの防火・防災点検
8月	11件	<ul style="list-style-type: none"> ・CSO ラーニング生の研修（7件） ・情報収集（4件）
9月	7件	<ul style="list-style-type: none"> ・CSO ラーニング生の研修（6件） ・情報収集
10月	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・CSO ラーニング制度によるインターン学生の研修（7件） ・情報収集（2件） ・スタッフ面接
11月	11件	<ul style="list-style-type: none"> ・EPO 関東との情報交換 ・情報収集（2件） ・今後の広報協力依頼、インターン募集の大学等呼びかけ先の紹介依頼 ・CSO ラーニング制度によるインターン学生の研修（4件） ・企業による社史ヒアリングで使用

		<ul style="list-style-type: none"> ・自治体から環境学習講座（チラシ）の配架依頼 ・NPO 法人より、月刊誌の配架依頼
12月	14件	<ul style="list-style-type: none"> ・CSO ラーニング制度によるインターン学生の研修（8件） ・情報収集（2件） ・SDGs に関する資料集め ・資料受取（2件） ・NPO 法人より、月刊誌の配架依頼
1月	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・CSO ラーニング生の研修（2件） ・情報収集 ・地域循環共生圏づくり事例ヒアリング ・NPO 法人からイベントチラシ配架依頼
2月	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域循環共生圏づくり事例ヒアリング ・情報収集 ・NPO 法人から情報誌の配架依頼 ・「生物多様性」に関わる NPO 活動の参考になる情報を収集
3月	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集
計	88件	

【メール・電話による相談・問合せ内容】

4月	32件	<ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会からユネスコスクール支援会議出席に関する電話連絡 ・NPO からイベントのチラシ配架依頼のメール ・愛知県から環境学習コーディネーター業務に関する問合せの電話（2件） ・EPOの施設についての問合せ ・企業設立財団から環境インターン募集の広報依頼 ・相談企業から協働コーディネーターとの面談に関する連絡 ・メルマガの登録情報変更の問合せメール ・地域 ESD 拠点から SDGs をテーマにした講師依頼の電話 ・愛知県から環境学習コーディネーター業務に関する問合せ電話（3件） ・NPO から SDGs の取組紹介ができる企業照会の依頼電話 ・相談依頼企業から EPO での協働コーディネーター面談設定に対する御礼メール ・SDGs の取組紹介ができる企業照会に関する詳細のメール連絡 ・旅行会社から環境学習ツアーの講師との調整についてメール連絡 ・観光農園運営に関係している企業からの EPO 照会についてメール報告 ・旅行会社と中部地方環境事務所によるミーティングスペース利用予約の電話連絡 ・旅行会社から依頼対応に対する御礼のメール連絡 ・NPO から SDGs に取り組むコーディネーター照会を依頼する電話連絡 ・NPO へ紹介した協働コーディネーターから快諾と御礼のメール連絡 ・三重県のユネスコ協会総会時の講演（講師依頼あり）の日時決定の電話連絡 ・愛知県の生協関係者から講師依頼の電話問合せ ・生協関係者（セミナー主催者）から詳細確認の電話連絡 ・三重県のユネスコ協会から総会での講演講師について確認のための電話 ・愛知県から愛知県環境学習コーディネーター業務に関する電話連絡 ・水銀廃棄物（蛍光灯）の扱いについての問合せ電話 ・企業財団から環境インターン制度の面接等に関するメール連絡 ・自治体から ESD 関連パンフレット送付の依頼メール ・白山自然保護官事務所から写真展開催の広報協力の依頼メール ・ユネスコスクール協会事務局からの登壇講演に関する連絡メール ・公益財団から海外研修に関する周知協力依頼
5月	22件	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体のイベント運営事業者選定に関わる依頼事項の電話連絡 ・自治体から ESD 関連資料・パンフレット送付に対する御礼・確認の電話連絡 ・企業（ESD ダイアログ登壇者）から SDGs ガイドブックの問合せ電話 ・大学から SDGs 関連の講演会について広報依頼 ・一般の方から騒音の測定方法についての問合せ ・NPO からイベントの広報協力依頼 ・大学から金沢の JC・大学生・高校生による SDGs キャンプイベントの開催協力の依頼の電話連絡 ・動物愛護法についての問合せ ・企業から SDGs ガイドブックについての問合せ電話 ・プラスチック問題に対するアイデア提言をしたいとの電話連絡 ・Green Gift（長野イベント）についての問合せ ・団体から冊子配架依頼 ・SDGs と地域循環共生圏をテーマにしたセミナー等についての問合せ電話

		<ul style="list-style-type: none"> ・生協関係者からセミナーについての電話連絡（2件） ・旅行会社から以前に相談対応した県事業の環境学習ツアーのパンフレット送付の電話連絡 ・CSO ラーニングキックオフ開催についてメール連絡 ・グリーンギフト関連イベントの開催広報の依頼メール ・環境アセスメントについて問合せ ・国立公園・国定公園の隣接地の木が伐採され太陽光パネルが設置されたことに関する苦情 ・高校からゼミ研究活動訪問のお願いについてメール連絡 ・NPO から活動に関する参加募集広報依頼のメール連絡
6月	33件	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の処分の許可証についての電話問合せ ・高校から情報収集と訪問についてメール問合せ ・自治体からあいち・なごや生物多様性 EXPO 事業者評価委員についての電話連絡 ・高校からゼミ研究活動訪問についてメール連絡 ・ゴミ袋の配布（ボランティア清掃）についての電話問合せ ・自治体からあいち・なごや生物多様性 EXPO 事業者評価の評価基準等の説明打合せの日程調整の電話連絡 ・前日来館した三重県の高校の先生から御礼メール ・自治体からあいち・なごや生物多様性 EXPO 事業者評価に関する連絡 ・大学より SDGs パートナースHIP構築に関するイベント支援についての電話連絡 ・先日相談対応した NPO から SDGs ワークショップの開催ニーズについての前向きなメール連絡 ・イベント広報依頼 ・ESD ダイアログ①福井についての問合せ電話 ・企業財団から事業説明のための来館のアポイントメント電話 ・6/13ESD ダイアログ登壇者からの電話・メールの資料確認連絡（4件） ・自治体からあいち・なごや生物多様性 EXPO 事業者評価に関する連絡 ・6/13ESD ダイアログ登壇者からの電話・メールの資料確認連絡 ・生協関係者からセミナーについての電話連絡 ・自治体からイベント周知依頼 ・団体からイベントへの補助金について電話連絡 ・自治体からの電話連絡 ・温暖化防止活動推進センターが高校2校へのガイダンスに EPO 使用を電話・メールで依頼 ・10/12ESD ネットワークフォーラム登壇者からの日程調整結果のメール連絡 ・8/8ESD ダイアログ②金沢に関する事務局メール連絡 ・ペットボトル問題に対して意見を述べたいとの電話連絡 ・中部地方環境事務所の連絡先を知りたいとの電話 ・依頼者自治体からコーディネート業務に関連して電話連絡 ・自治体から 8/8 開催イベント周知についての電話照会 ・依頼者自治体からコーディネート業務に関連して電話連絡 ・団体からイベント活動のお知らせメール ・大学関係協議会からセミナーの広報協力依頼メール
7月	22件	<ul style="list-style-type: none"> ・CSO ラーニング制度について主宰財団からの問合せ ・講師依頼のあった生協関係者から電話連絡 ・自治体の HP 上における中部地方 ESD 活動支援センターのリンク掲載の可否について電話照会 ・COP10 記念イベント事業者選定委員に関する自治体から電話連絡自治体から電話連絡 ・関東 ESD 活動支援センターから問い合わせ ・一般市民から近辺の花が枯れてきたことについて電話による問合せ ・NPO 団体からグリーンギフトに関する電話連絡 ・高校生の打合せスペース利用について電話照会 ・高校生から訪問ゼミの依頼の電話 ・団体から環境保護基金について広報依頼メール ・企業から SDGs についての相談メール ・基金募集広報の依頼メール ・一般の方から国道沿いの樹木の管理について電話問合せ ・団体から 8/8ESD ダイアログの電話問合せ ・高校のフィールドワークで海洋汚染の話聞きに EPO を訪問したいとの電話依頼 ・企業から事業について Web への情報掲載依頼 ・8/29SDGs 検証ワークショップについて関係者から電話連絡 ・企業から助成金について Web への情報掲載依頼 ・地球環境基金について機構からの電話・メール連絡(2件) ・NPO から広報資料の配架について電話照会 ・自治体から同時解決事業について問合せの電話
8月	12件	<ul style="list-style-type: none"> ・ESD 拠点団体と SDGs の講座の打合せについての電話連絡 ・団体から助成金広報依頼メール

		<ul style="list-style-type: none"> ・団体から後援名義申請の手続き方法と申請書類（フォーマット）の入手方法について電話照会 ・環境学習コーディネーター事業について団体から電話連絡 ・NPOからのイベント広報依頼メール ・団体から助成金広報依頼メール ・行政よりEPOの打合せ利用申請の電話 ・企業から助成金の広報依頼メール ・行政よりイベント広報依頼メール ・行政よりEPOの打合せ利用についての（キャンセルの）電話 ・行政から環境学習コーディネーター事業について電話 ・団体からイベントについて広報依頼の電話・メール
9月	20件	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から校外学習によるESDセンター訪問についての電話問合せ ・NPOからイベントの広報協力依頼のメール ・自治体から環境政策に関する電話問合せ ・高校からESDセンターへの訪問・講義の依頼電話 ・自治体からイベント後援申請についての確認のメール・電話連絡 ・CSOラーニング生定例会についての電話連絡 ・自治体からイベント広報協力依頼の電話・メール ・団体からイベント広報協力依頼のメール（2件） ・地球温暖化に関する問い合わせ ・団体からイベント広報協力依頼のメール ・ESD学びの場づくりガイドブックの入手についての電話問合せ ・団体から助成金説明会の広報協力依頼のメール ・イベントの後援申請、広報協力依頼のあった自治体から連絡先等訂正の電話連絡 ・ESD学びの場づくりガイドブックの概要版の有無についての問合せ電話 ・10/23 錦二丁目地区SDGsフォーラム欠席連絡 ・11/23 フォーラムちらし送付依頼 ・企業から「ジャパンSDGsアワード」の応募について電話及びメールによる相談（2件） ・粗大ごみの出し方について問合せ電話
10月	13件	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育コンクールの作品募集広報の協力依頼メール ・四国EPOから岐阜県職員、名古屋市内NPOへの相談対応依頼の確認メール ・地球環境基金説明会について申込確認の電話 ・運営会議委員からユネスコスクール交流会の広報協力依頼メール ・メルマガ配信（購読）希望のメール ・ESD学びの場づくりガイドブック資料等の取り寄せ依頼の電話 ・飯山市の台風19号被害状況の報告メール（3件） ・振動・電磁波等の影響に対する対応方法についての電話 ・環境省からのオリンピック関連CO2削減取組のPR依頼のメール ・環境省の電話番号について問合せの電話 ・環境省からの企業対象コンテストのPR依頼のメール
11月	15件	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県の気候変動アンケートの広報協力依頼の電話 ・象牙の廃棄方法についての問合せ電話 ・団体から助成金募集の広報協力依頼メール ・企業からセミナーの相談についての電話 ・企業から訪問希望についての電話 ・協働政策ガイドブック提供に対する御礼メール ・自治体関連団体からイベントの広報協力依頼の電話とメール ・マンション内の居住環境に関する相談の電話 ・愛知県環境局から届いた文書についての問合せ電話 ・自治体からコーディネーター事業についての電話 ・相談依頼のための来館のアポイントのメール ・自治体から環境学習講座の広報依頼の電話 ・団体からイベント広報協力についての問合せ電話 ・SDGsチェックリストの送付依頼の電話 ・イベントの広報依頼
12月	16件	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議委員の連絡先についての問合せメール（勉強会への登壇依頼） ・イベントの広報依頼メール ・愛知県のユネスコスクール活動事例集の原稿確認依頼のメール ・11/4開催ESDフォーラムについての事務手続きについて登壇者から問合せ電話 ・ESDの資料についての問合せ電話 ・イベント申込先について問合せ電話 ・助成金の広報依頼メール ・SDGs資料の提供依頼メール（2件）

		<ul style="list-style-type: none"> ・資料提供、来館の御礼メール ・NPOからのイベントの広報協力依頼メール ・ESD拠点からのイベントの広報協力依頼メール(2件) ・ESD拠点からワークショップ(講師)の実施依頼メール ・相談対応済企業から年末のご挨拶 ・自治体から見える化チャート作成の問合せ連絡
1月	25件	<ul style="list-style-type: none"> ・主催イベント申込について問合せ(電話:2件/メール1件) ・自治体から講演・ワークショップ依頼 ・主催イベント申込確認について御礼 ・企業から意見交換・施設見学会参加者の募集について相談の電話 ・団体からイベント広報依頼のメール ・環境カウンセラーからESD・SDGs啓発資料について問合せの電話 ・環境カウンセラーから資料受取と御礼の電話 ・SDGsチェックリストについて問合せ電話 ・地域循環共生圏に関わる助成制度等についての問合せ電話 ・団体から講座広報依頼のメール ・自治体からESD/SDGs関連資料について問合せ電話 ・自治体から主催イベント申込についての連絡メール ・自治体から資料受取と御礼の電話 ・自治体からWebページのリンク先掲載について報告の電話 ・自治体から主催イベントについて問合せ電話 ・ESD拠点からイベント広報依頼のメール ・金融機関からイベント開催の案内メール ・EPOの打合せ利用の申込電話 ・団体から地域ESD拠点登録について問合せ電話 ・主催イベントについて申込の電話 ・団体からイベント告知依頼のメール ・国から配架資料について問合せの電話 ・企業から意見交換会への参加者推薦依頼のメール
2月	21件	<ul style="list-style-type: none"> ・企業から意見交換会への参加者推薦の再依頼メール ・団体からプロジェクト公募の周知依頼メール ・団体からシンポジウム周知依頼メール ・自然保護管事務所からイベント及び募集情報について周知依頼メール(2件) ・ESD拠点関連イベント案内メール ・中学校から来館(勉強会)についての問合せの電話(4件) ・中学校から講師紹介依頼の電話 ・ごみ袋・分別方法の全国統一について要望の電話 ・自治体から主催イベントについて電話 ・中学校から講師依頼、学習計画等の相談の電話 ・広報協力したイベント中止のお知らせメール ・イベント中止のお知らせメール(5件) ・中学校から勉強会について延期の電話
3月	5件	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から勉強会について日程打診の電話 ・団体からイベント中止の連絡に関する電話 ・ビル防災センターから新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる注意喚起 ・施設の会議利用の電話連絡(2件)
計	236件	

ウ オフィスの運営

- オフィスの運営及び業務実施に必要な機材・消耗品等を揃え、その使用料の支払、EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの HP・メールアドレス・固定 IP の維持管理費用の支払等、維持管理に必要な事務を適宜実施した。

4 協働取組の促進のための業務

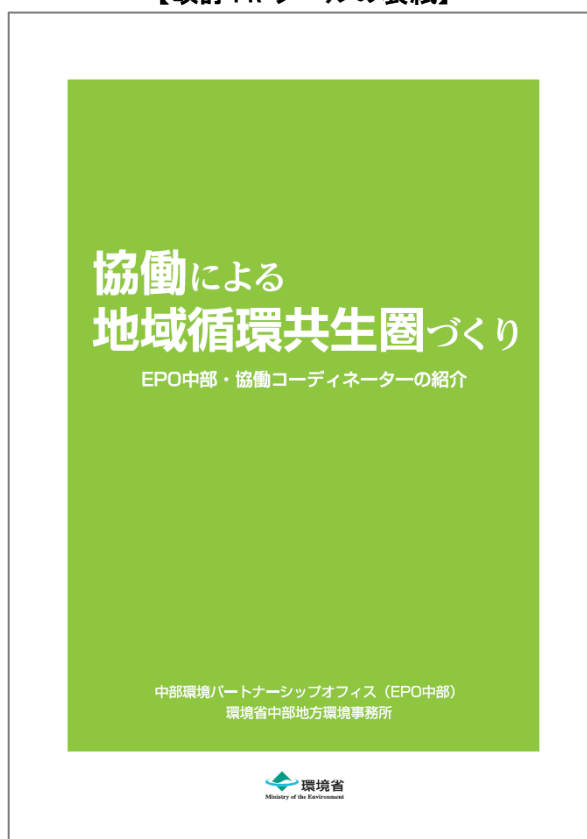
(1) 協働コーディネーター育成事業の発展的展開

ア 協働コーディネーターの PR ツールの活用

(ア) PR ツールの改訂

- 昨年度（2018年度）に作成した協働コーディネーターPR ツールについて、今年度作成の改訂版では、協働コーディネーターを紹介するためのリストを掲載し、4名の協働コーディネーターの活動事例を追加した。（昨年度版では8名の事例を掲載しており、今年度の追加で計12事例が掲載されたことになる。）
- また、「活動見える化プログラム」の掲載事例等を今年度構築した内容のプログラムと、実施したケーススタディ3事例に更新した。

【改訂 PR ツールの表紙】



(イ) PR ツールの活用

- 昨年度作成した PR ツールについては、協働コーディネーターに配布し、自己 PR 資料として活用いただいているほか、本年度の 8 月及び 11 開催の協働フォーラムにおいて、参加者へ配布した。
- 今年度作成した PR ツールについては、1 月開催の地域循環共生圏づくりワークショップセミナーで参加者に配布したほか、協働コーディネーターへの配布、ウェブサイトへの掲載、公開を行った。

2 EPO中部・協働コーディネーター

■ EPO中部・協働コーディネーターの皆さん

第5期（2018～2020年度）のEPO中部では、2020年1月現在、下記の協働コーディネーターがEPO中部の活動に協力いただきながら、各地で活躍されています。
各コーディネーターに相談したいことなどがございましたら、EPO中部へご連絡ください。

地域	名前	所属先等	コーディネーターからひと言（各自の活動内容や相談対応が可能な分野など）
富山県	茶木 勝	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 代表取締役	SDGsを標榜し、ローカル（富山）であらゆるセクター間のパートナーシップが構築され、地方創生ひいては誰一人困らない持続可能な社会が具体的・効果的に実現されるよう、日々様々な取組・調整を行っています。
	堺 勇人	環境市民プラットフォームとやま 副事務局長	SDGsを標榜し、ローカル（富山）であらゆるセクター間のパートナーシップが構築され、地方創生ひいては誰一人困らない持続可能な社会が具体的・効果的に実現されるよう、日々様々な取組・調整を行っています。
石川県	中里 茂	環境カウンセラー	協働での事業を進めるうえで課題となる一つが資金調達の問題であり、一方環境問題等における金融機関の果たす役割は重要であることから、知識や経験を踏まえて「金融機関との協働取組の創出」についてコーディネートしています。
福井県	三田村 佳政	水辺と生き物を守る農家と市民の会	地域、行政、研究機関が連携した希少野生動物保全活動のコーディネート、里地里山の保全再生を協働・連携により進めていくための政策・計画の提案及び地域活動団体の運営支援を行っています。
	中島 阿児	NPO法人WACおばま 理事 NPO法人若狭くらしに水舎 代表理事	「中間支援型」と「起業型」の2つタイプのNPOを運営。主に里山の再生をテーマとして、地域の休眠資源の再利用やコミュニティの在り方、団体・学校・行政などとの協働連携を行っています。
長野県	山室 秀俊	特定非営利活動法人長野県NPOセンター 事務局長 佐久市市民協働サポートセンター センター長	「100年先も住みたい、訪れたい長野」を市民、行政、NPOなどの多様な方々と協働で創るお手伝いをします。SDGs、ESD推進の入り口の相談から対応しています。どんなテーマからでもまずは気軽に声をください。
	山田 勇	特定非営利活動法人えんのわ 特定非営利活動法人わおん	主に子どもたちを対象とした体験活動の企画運営。特に森をフィールドにした自然体験活動が専門です。また、カフェのように気軽に行ける森づくり「森カフェ・プロジェクト」は、未就園の親子を対象に展開しています。
愛知県	蒲 和宏	「なごや環境大学」実行委員会 事務局長	市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働で運営する環境学習のプラットフォームです。講座やゼミナールなどの運営の他、環境活動・情報の発信、ネットワークを活かして、団体、企業などの活動支援、橋渡しを行います。
	坂本 竜児	NPO法人エコデザイン市民社会フォーラム コミュニティ・ユース・バンク momo 副代表	環境活動の支援と実践を行っています。日ごろは、日常的な市民や事業者のエコライフの相談窓口やエコライフ啓発セミナーの開催、企業と環境保全団体のマッチング活動に取り組んでいます。また、イベント等でエコブースを運営したり、東海三県のNPO等への資金融資や伴走支援を行っています。
岐阜県	野村 典博	特定非営利活動法人森と水辺の技術研究会 理事長	小中学校での生物多様性や流域のつながりなどに関する環境教育を支援する活動を行っています。また、生物多様性や地域資源を活用した地域づくりなど、地域の持続や再生に向けた活動の応援もしています。
	河合 良太	NPO法人泉京・垂井 理事 NPO法人地域の未来・志援センター 地域コーディネーター	（2020年4月に静岡県へ転居。左記の所属先には2020年3月まで在席。）
三重県	寺田 卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表	持続可能な地域のための「場づくり、人づくり、つなぎ役」をやっています。SDGsどう取り組んだらいいの？地域の課題をみんなで考えたい、ESDやSDGsを推進する人を育てたい、そんな時一声おかけください。

敬称略、所属先・肩書きは2020年2月現在

■ 地域循環共生圏づくり研究会の開催

EPO中部・協働コーディネーターの皆さんが集まる場として2018年度に「協働コーディネーター連絡会」を、2019年度は「地域循環共生圏づくり研究会」をそれぞれ3回開催し、協働取組や地域循環教師県づくりに関わる研究、事例の共有などを行いました。

2020年度からは協働コーディネーターに加えて、地域循環共生圏づくりに取り組む地域や主体も含めたネットワークを形成し、地域循環共生圏や協働に関する事例研究などに取り組みます。



協働コーディネーター連絡会での様子

EPO中部コーディネーター

茶木 勝氏 (株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ代表取締役)

上市アグリパーク構想の取組と地域資源活用事例

富山県上市町は自然豊かで農業が盛んな中山間地域です。株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズは、上市町で農作物の生産者とその加工品の製造者をつなぐ架け橋となり、地域資源の循環を目指す「上市アグリパーク構想」の実現による地域の活性化と雇用創出を目指している会社です。

私は7、8年前に東京からUターンで移住した際、地域の雇用創造協議会に携わることになりました。この協議会で、地域資源を活用しつつ雇用を創出しようと検討を重ね、その検討結果を行政にもきちんと説明して町(行政)の支援が得られるよう事業計画表を作成しました。その中で時間軸とともに計画の進め方や、各々の計画によって地域にどのような影響があるかなどを整理し、表にしました。計画の中で、観光(エコツーリズム)の項目ではガイドを養成しておもてなしの街を実現すること、特産品の項目では地域資源を活用したドレッシングやピクルス等を生産すること、街中活性化の項目では地域の女性達が昔に勉強したことや趣味を活かし、収入と生きがいを得られるよう「女性プナ起業塾」を開校することなどを盛り込みました。それら計画を一覧表にしたことで必要な施策もわかりやすくなり、その後のそれぞれの取組をスムーズに進めることができました。さらに、特産品の販売方法が不明確だったことから、私自身がティー・ツリー・コミュニケーションズを立ち上げ、特産品やアターの販売などを手掛けることになりました。

ティー・ツリー・コミュニケーションズでは、高校生と一緒に商品開発にも取り組みました。富山県立中央農業高校の生徒達が無農薬栽培のワコンの生産に成功したのですが、このワコンを粉末にしただけでは売れないため、富山の薬文化を商品化した「メグスリノキの九宝茶」にブレンドすることを提案し、卒業する生徒達のご家族にも飲んでいただく事を実施しました。また、地元の富山信用金庫がキャンペーンの景品として採用頂きポスターやチラシ配布などで広く告知されたり、北陸銀行が窓口のお客様に粗品として配ったことから、新聞等のメディアでも紹介いただくなど話題になりました。

そのほかにも、森林組合の協力を得て、地域でこれまで活用されてこなかったクロモジ・スギ・ヒノキからエッセンシャルオイルの精製を行ったり、地元の山菜を使ったドレッシングや、猪肉のカレー、地元食材を用いたジェラートなど、地域の人達と協力して地域の資源を活用した特産品の開発、生産、販売を展開してきました。

今では農家や精油施設、酪農家、養鶏場など、様々な関係者が自社の運営する「つるぎの味噌(指定管理)」を中心に連携する形ができています。このつながりによって、上市町の農業・食・観光・教育・産業の共栄圏をつくる「上市アグリパーク」を構想しています。地域の様々な団体、人々をつなぎつつ、地域資源の活用に加えて再エネや空き家問題、2次交通の活用などにも取り組む、持続可能な地域づくりを実現できればと考えています。

生産者(第1次産業)と、加工品の製造者(第2次産業)と、お客様をつなぐ架け橋(第3次産業)になり
 “地域資源の循環を取り入れた”
 “上市アグリパーク構想”
 を、実現し発展させることで
 地域の活性化と雇用創出に貢献する。



EPO中部コーディネーター

中嶋 阿児氏 (NPO法人WACおばま理事、NPO法人若狭くらしに水舎代表理事)

厄介モノから地域資源へ、アブラギリを活用した高校との協働取組

NPO法人WACおばまは、福井県小浜市の上根来(かみねごり)という無住化した集落で、元住民の地域活動を支援し、トレッキングコースの整備や空家の活用、豪雪地帯の地域性を活かした雪室(ゆきむろ)づくりなどに取り組んでいます。上根来は元住民が頻繁に通い、集落の清浄や家や墓の守りを行っていることから、再び人が住むことは難しくても人が通う地域になるよう、「上根来里山再生プロジェクト」を展開しています。

その上根来にはアブラギリ(ニホンアブラギリ)の群生地があります。アブラギリは種子から「桐油」を採取できる植物で、微毒性があり食用に適さず、昔は塗料に用いられました。若狭地方では江戸時代から盛んに栽培されてきましたが、昭和半ば頃、石油に需要を奪われ、栽培地は針葉樹や梅林などに転換され、産業として途絶えました。しかし、アブラギリは繁殖力・成長力が強く、今では一部残ったものが野生化、群生化し、国内外来種とも呼べる若狭地方一帯に広がる環境問題になっています。

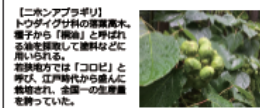
WACおばまが上根来でアブラギリの活用について考えていた同じ時期、地元の若狭東高校もこの植物に着目していました。若狭東高校は環境学習の一環で、開伐材を使った机・イスを手作りしており、使用するニス(撥水剤)：市販の多くは石油由来の有機化合物の外国製品を、天然かつ地元素材で作れないかと調べた結果、アブラギリの桐油に辿りつきました。

2011年度からWACおばまがサポートする形で若狭東高校との共同研究がはじまり、上根来は研究用のアブラギリの実の回収、高校の実習場になりました。高校では、桐油の研究、桐油の撥水実験、幹を使ったキノコの原木栽培、薬寿司の商品開発などを行いました。WACおばまも研究に必要な機材・道具の調達、専門家の招聘などの支援のほか、研究成果の発表や地域住民への認知を目的にアブラギリをテーマにしたシンポジウムを開催してきました。しかし、最終的に桐油の製品化については、高校が生産や販売の事業化まで行うには限界があり、WACおばまも中間支援の立場で事業化を手がけることは難しくなったことから、2017年度から小水力発電や木質バイオマス(薪の生産)に取り組んできたNPO法人若狭くらしに水舎が主体となり、製品事業化に着手することになりました。

現在では、若狭で生産された桐油が日本の「文化財修復指定材料」に使用されることを目指して、小浜市行政との協働体制も整いつつあります。文化財分野においては、このような修復材料を海外製品に依存してきたことが近年問題視され、国産化の流れが起きているからです。若狭東高校は桐油条件を数値化して徹底的に記録するなど、桐油の品質保証につながる研究へ精度を高めています。2018年度には本格的な製造工程による試作や、市販品(輸入品)との比較を含めた成分分析にも取り組みました。2019年の春からは、試作品を文化庁及び文化財修復業者に提供して、品質調査を行っています。

もしもこの取り組みが形になれば、地域経済のみならず、環境分野、文化財分野においても好循環を生み出すことができることから、手がけてきた高校生たちの功績は大きく、評価されるべきものです。そして、彼らの活動と教育が、今後も地域で持続的に支援される体制をつくっていきたくと考えています。

幻の特産品、アブラギリ



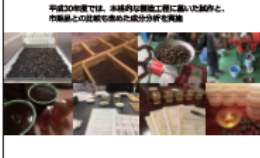
【ニホンアブラギリ】トウダイグサ科の常緑高木。種子から「桐油」と呼ばれる油を採取して塗料などに用いられる。若狭地方では「ヨロビ」と呼ばれ、江戸時代から盛んに栽培され、全国一の生産量を誇っていた。

アブラギリシンポジウム



WACおばま主催、市内4町村の協力を得たシンポジウムを開催

品質調査に使う標準サンプルを制作



平成30年度では、市内には建設工事に近い材料中心、市販品との比較のための成分分析を実施

小浜市里山創造協議会へ参画



【里山創造協議会】里山の保全・小浜市(若狭水産)が事務局となり、協議会を通じて里山再生の取組を進めています。市行政と連携した「アブラギリの活用」がテーマのシンポジウムを開催し、協議会の行政への情報提供も。

若狭桐油生産への道のり

- ①市場・需要開拓
→「文化財修復」にターゲットを絞り、サンプル提供による品質調査を行い、産地への呼びかけによる認知を広げる。
- ②相場設定、仕組み化
→アブラギリの採りやすさ、油の抽出率、質の確保・検定、薪・薪割機、薪割機の人員確保、卸売と生産者の関係。
- ③採油設備の内製化
→産地産地の小水力発電設備の活用は難しく、桐油抽出の持続的に行われる体制づくりが重要。

EPO中部コーディネーター

蒲 和宏 氏 (「なごや環境大学」実行委員会事務局長)

「なごや環境大学」の取組

なごや環境大学が開学したのは2005年です。その当時、渡り鳥の中継地である藤前干潟を埋立処分場にする計画がありましたが、地域の貴重な自然を守ろうとする市民の声によって中止されました。名古屋市は1999年に「ごみ非常事態宣言」を出し、その後、市民と協力して40%のごみ減量を達成しました。市民がごみ問題を他人事ではなく自分ごととして理解・認知した画期的な出来事であり、これが契機となって非常事態宣言から6年後になごや環境大学が発足しました。

非常事態宣言で培った協働の精神で、平時から環境意識を高めて地球環境を守っていくことと、市民/市民団体・企業・教育機関・行政などで構成される実行委員会が、なごや環境大学の運営を行っています。財源は名古屋市の負担金が9割以上で、その他は広告収入などとなっています。名古屋の街じゅうをキャンパスにして、2018年度までに2,000以上の講座やイベントが開催されており、延べ26万人以上が参加しています。

なごや環境大学の事業は、主催講座、共育講座、エコゼミ、ネットワークづくり・人の輪づくりなどです。講座内容を紹介するガイドブックを春・秋の年2回発行しており、図書館・区役所・生涯学習センターなどに配布して、講座の参加者の募集を行っています。ガイドブックの発行部数は13,000部で、広告掲載により、企業等からの広告収入も得られています。

講座には、エネルギー、気候変動、自然共生、資源循環、健康安全、まちづくりなど様々なジャンルのものがあり、ガイドブックに掲載されることにより、広くPRされます。なごや環境大学が主催する講座もあります。年2回開催している「愛岐の里山たんけん隊」はリピーターの多い講座で、名古屋市の埋立処分場・愛岐処分場(岐阜県多治見市)に隣接し、荒廃していた里山で、地元の人たちが田んぼや畑を復旧させており、講座開催時には、名古屋の子どもたちが訪れて田植えや収穫したお米で五平餅づくりなどを行っています。そのほか、共育講座では印刷会社の工場見学やリスの調査・観察会、子どもを対象にした防災教室など、市民団体や企業などが企画・主催する講座が多岐に開催されています。また、共育講座(年2回募集)では、市民/市民団体による講座に対し、1コマ3万円の補助(上限10万円・半期)も実施しています。共育ゼミナール(毎年11月に募集)では、特定の事例を調査研究する団体やグループに対し、年間最大15万円の支援も行っています。2019年はごみ非常事態宣言から20年目の節目にあたることから、20周年記念イベントを開催したところ、約6,000人の参加がありました。

なごや環境大学は、第4期(2017~2026)のビジョン・重点目標として7項目を掲げており、今後も、SDGsの目標17にある市民との「パートナーシップ」を軸に、SDGsの達成を目指して取組を続けていきます。

なごや環境大学の目的

「環境首都なごや」そして、
「持続可能な地球社会」を支える
「人づくり・人の輪づくり」を進め
行動する市民、協働する市民として
「共に育つ」

なごや環境大学は何をしているの？



なごや環境大学ガイドブック

- 共育講座・ゼミナール、環境大学の主催講座などを掲載
- 年2回発行(3月、9月)各12,000部
- 市内の区役所、図書館、生涯学習センター、観光案内所をはじめ、市内の各種施設などで配布

主催事業の紹介



第4期ビジョン 重点目標(2017~2026)

- だれもが安心して暮らし続けられるまち「なごや」を実現するための環境を創ります。
- 「なごや環境大学」が持つノウハウを活かし、様々な分野で活躍する人たちの交流の場をつくらせます。
- 様々な分野で活躍している人たちに、社会貢献が行動する機会を提供します。
- 未来のなごやを担う若者と協働の光景を創ります。
- 様々な手法で事業の創出を行い、次の行動に結びつけます。
- 新たな資金を生み出し、これまでない活動を行っています。
- 「なごや環境大学」への共感や信頼を得る機会を創ります。

EPO中部コーディネーター

河合 良太 氏 (NPO法人泉京・垂井理事、NPO法人地域の未来・志援センター地域コーディネーター)

揖斐川流域における流域フェアトレードの仕組みづくり

垂井町は岐阜県美濃地域の西側にあり、NPO法人泉京・垂井は、垂井町を含めた揖斐川流域の地域で、循環型社会を目指した地域づくりに取り組んでいます。泉京・垂井のビジョンは、「住民が愛着を持ち、豊かに暮らし続けられる町」をつくることです。これは「住民の主体性を育み、持続可能な社会をつくる」ことを意味し、私たちはこれを「穂豊(おんぼう)」と呼んでいます。「穂豊」は穂やかなことが豊かなことを意味する我々の造語です。経済一辺倒の社会、環境・人に負担をかける社会ではなく、循環型で持続可能な社会を「穂豊社会」と呼び、その実現に向けて取り組んでいます。

揖斐川流域にある岐阜県揖斐川町旧春日村はお茶の生産地ですが、地域の高齢化が進んだ結果、お茶の生産・流通の仕組みが成り立たなくなり、お茶が安く買われるようになりました。しかし、地域住民が茶園を立ち上げ、買い取った地元の無農薬のお茶を茶葉子と併せて製品化するなどの工夫をしたところ、生産者の顔が見える丁寧な販売方法が功を奏し、適正な価格でお茶が買い取られるようになりました。茶園の方は「これがフェアトレードだよね」と話しています。

フェアトレードは、途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組みです。ただ生産者に対価を支払うのみではなく、経済・社会・環境の3つの基準を満たすことにより、フェアトレードとして認定されます。そして、日本国内にも途上国と先進国関係のように、都市と地方(田舎)、或いは流域の上流と下流において、構造的な問題があると気付いた私たちは、「流域のフェアトレード」の仕組みづくりに取り組みはじめました。目標は、流域内のフェアトレード、住民の主体的参加、地域と世界の視点による持続可能な社会、タウンプロモーション、地域への移住促進です。

泉京・垂井が事務局を務め、フェアトレードと地産地消の啓発を目的に開催している「フェアトレード日垂井」は、フェアトレードを「世界の人と自然が健康的に共存するためのものづくり」と「流通」の仕組み」と定義しています。2018年度までに8回開催し、人口27,500人の地域に8,000人の来場者がある地域にとってインパクトのあるイベントになっています。

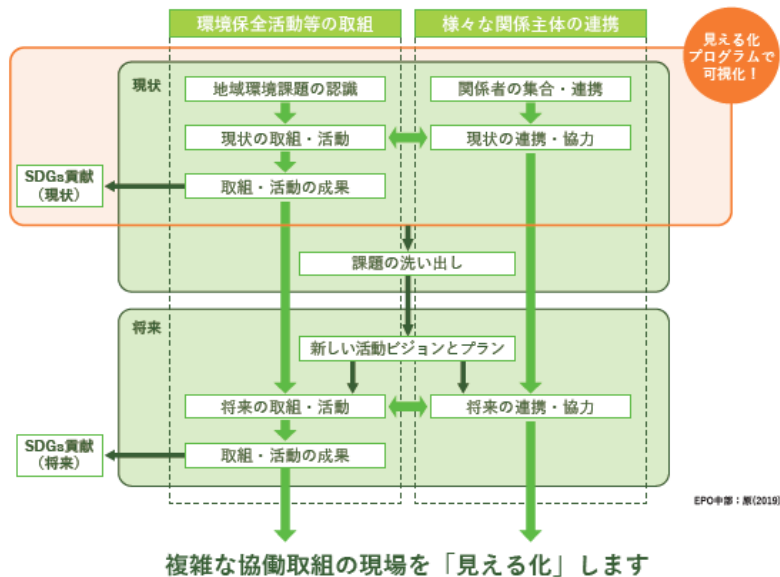
現在、世界には約2,000の都市、日本では6地域が「フェアトレードタウン」に認定されています。フェアトレードタウンになるには議会の議決や首長による宣言が必要で、行政・企業・住民が一体となって取り組む必要があります。垂井町でもフェアトレードを応援しようと、地域住民や商工会などが協力して勉強会や啓発活動、マップの作成などを行っており、協働による流域のフェアトレードタウン推進に取り組んでいます。

3 EPO中部が構築・地域の協働取組を可視化する 「活動見える化プログラム」

いろいろな地域で問題解決のため行われている協働取組は、多くのステークホルダーが関係しており、活動が多岐に渡っています。そのため活動の成果や意義を、全体的に説明することが難しいことも少なくありません。また実施していた取組が思わぬところに貢献していたり、まったく別の分野に貢献していることに気が付かないこともあります。特に現在注目されている地域循環共生圏やSDGsを念頭に置いた取組は、地域における持続可能性の社会の構築に不可欠で、実践している協働取組がどのように貢献しているかを認識することが重要です。

EPO中部では協働取組の支援のため、「活動見える化プログラム」を構築しています。これは多様な地域における活動における地域循環共生圏やSDGsへの貢献を可視化するための分析手法です。このプログラムによる分析を通じて、対象となる活動がどのような経緯で行われてきたか、現在どのように連携して行われているか、地域循環共生圏やSDGsにどのように貢献しているか、など「可視化」することで活動当事者は内容を改めて認識することができます。その結果として、協働の取組を進展させ、関係者の今後の取組に活かしていただければと考えています。

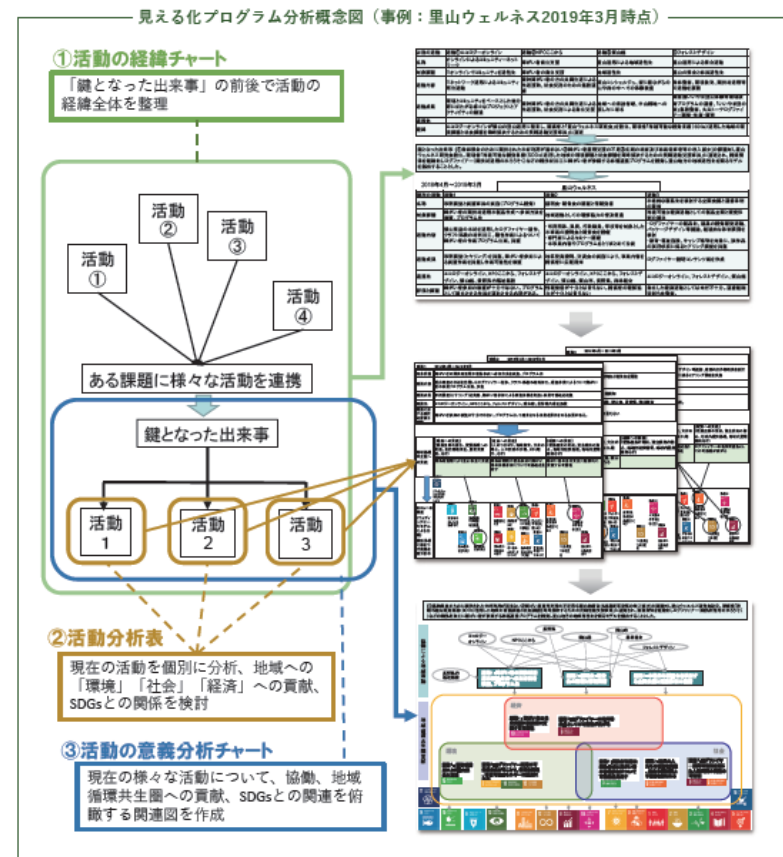
■ 環境保全活動等の協働取組、変革のプロセスに役立てる



■ 「活動見える化プログラム」分析手法の概要

このプログラムでは次のような分析を行います。

- ①多面的な現在の活動を過去の取組が何かのきっかけで統合されたものと考え、その「鍵となった出来事」の前後で活動の経緯全体を整理します（活動の経緯チャート）。
- ②現在の活動を個別に分析し、地域への「環境」「社会」「経済」への貢献の状況を整理し、SDGsとの関係を検討します（活動分析表）。
- ③現在の様々な活動について、協働、地域循環共生圏への貢献、SDGsとの関連を俯瞰して見られる関連図にまとめます（活動の意義分析チャート）。

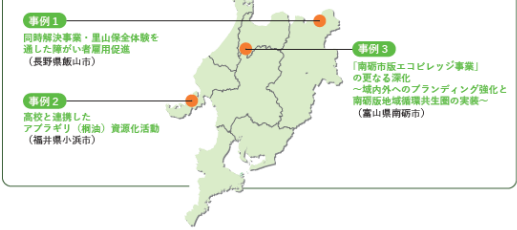


★ EPO中部では、今後も実証研究を行いながらプログラムを改善していきます。

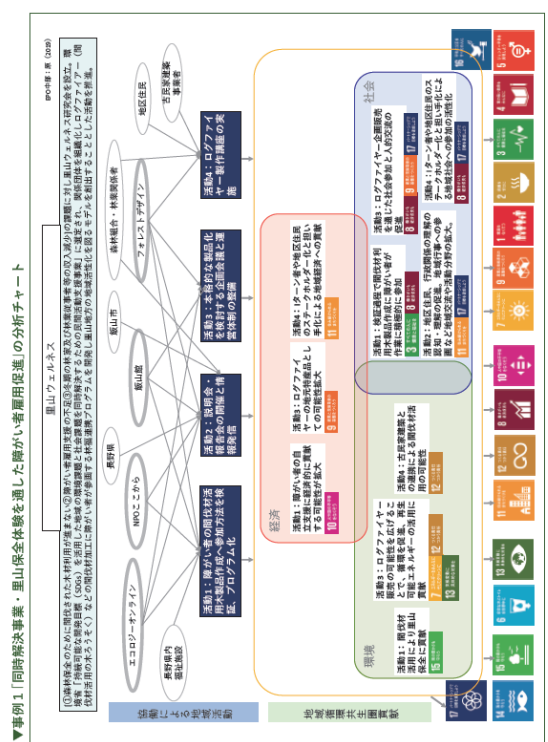
■地域の協働の取組を「見える化」しました

協働取組の見える化について、実際に環境にかかわる事例をケーススタディとして取り上げ、結果をフィードバックして反映、改良しながらプログラムの構築を行っています。

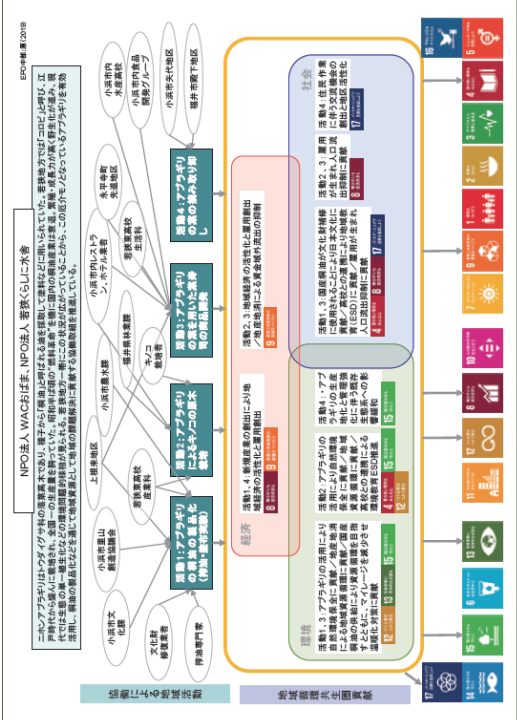
適用事例をご紹介します！



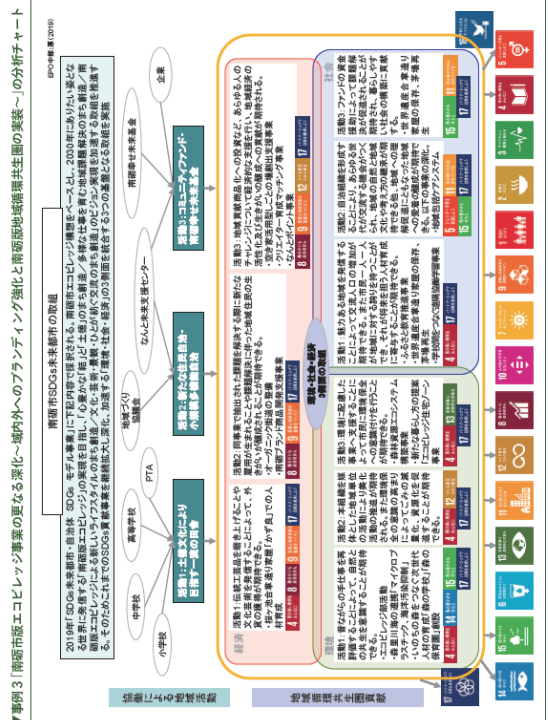
- 事例1 同時解決事業・里山保全体験を通じた障がい者雇用促進**
環境省の「SDGsを活用した同時解決事業」中部採択事業として「里山ウェルネス」が実施しています(本誌p2参照)。間伐材を活用した木ろうそく「ログファイヤー」の製作に障がい者が関わる林福連携を通じて地域を活性化する活動に取り組んでいます。
- 事例2 高校と連携したアブラギリ(桐油)資源化活動**
かつて桐油生産のために輸入されたアブラギリが里山の厄介者になっていたものを、再度の桐油生産復活や、アブラギリ材によるキノコ栽培など、その活用を図っている取組です。分析には協働コーディネーターの中尾さんに協力いただきました。
- 事例3 「南砺市版エコビレッジ事業」の更なる深化
～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～**
行政の基礎的施策を対象とした分析事例で南砺市エコビレッジ推進課にご協力いただきました。南砺市の「エコビレッジ事業」を地域循環共生圏として深化させるための「土徳文化により目指す一流の田舎」、「新たな住民自治・小規模多機能自治」、「コミュニティファンド・南砺若くは未来基金」の3つの基礎施策について分析しました。



▼事例1「同時解決事業・里山保全体験を通じた障がい者雇用促進」の分析チャート



▼事例2「高校と連携したアブラギリ(桐油)資源化活動」の分析チャート



▼事例3「南砺市版エコビレッジ事業の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～」の分析チャート